

目次

第1部 都市工学専攻・都市工学科の概要

1. 都市工学専攻・都市工学科の成り立ち
2. 都市工学専攻・都市工学科の運営機構
3. 都市工学専攻・都市工学科の構成メンバー
4. 都市工学専攻・都市工学科の建物の平面図

第2部 カリキュラムと学習指針（平成28(2016)年度以降入学生）

1. 教育理念と学科目の構成
2. 修得すべき授業科目と履修概要
3. 単位取得までの流れと成績評価
4. 学修履歴の記録
5. 1年次における学習
6. 2年次における学習
7. 3年次における学習
8. 4年次における学習
9. 各授業科目の概要

付表：都市工学科履修モデル

第3部 カリキュラムと学習指針（平成25年度～平成27年度入学生）（平成24年度以前入学生）

1. 平成25(2013)年度～平成27(2015)年度入学生
2. 平成24(2012)年度以前入学生

第4部 大学院博士前期課程のカリキュラムと学習指針

1. 大学院の教育目標と学生募集について
2. 博士前期課程・都市工学専攻の概要
3. 博士前期課程・都市工学専攻の講義科目概要
4. 博士前期課程の中間発表会について
5. 博士後期課程について

第5部 就職・資格／免許・学生生活について

1. 進路の選択 ー就職してどんな仕事をするかー
2. 都市工学科の卒業生就職先
3. 就職に関する学科の方針
4. 各種資格・免許について
5. 大学評価・学位授与機構について
6. 学生生活に関する Q & A

付録 平成30年度 授業時間割表（前学期・後学期）

平成30年3月30日発行

編集：佐賀大学理工学部都市工学科（担当：押川・中大窪）

表紙デザイン：溝上智奈美

第 1 部 都市工学科の概要

1. 都市工学専攻・都市工学科の成り立ち

土木工学科と建設工学科の創設

都市工学科は、1970年に設立した土木工学科が源です。設立12年後の1982年には土木工学科を拡充することを目的に、兄弟学科建設工学科を創設しました。2学科で入学定員80名の土木系学科は、学生数だけで見れば九州大学と肩を並べる学科になりました。

さらに、地域の課題である軟弱地盤対策と総合的な水管理に関する研究を強化するために、1991年には専任の研究者3名を擁する低平地防災研究センターが設置されました。学科が研究センターの構築に積極的に協力して連携を保つことは非常に珍しく、地域・国際に密着した国内外における唯一の同センターを拠点とし、研究者・技術者・行政・企業との連携を強めて研究・技術的課題を解決することにより、大きな貢献を果たしてきました。他方、同じ課題を抱える諸外国の研究者との連携を図り、国際的な教育研究も展開してきました。両学科・センター双方において外国から著名な研究者を迎え、研究のみならず、教育にも参加いただくことで、学生が多くの外国人の先生方から教育を受ける機会も増やせました。近年では大学院を中心に外国人学生が急増し、両学科は一気に国際色を強めていきました。

都市工学科の成立

佐賀大学土木工学科・建設工学科は、創設以来、社会基盤づくりを担う技術者を養成する教育機関として、また地域課題を中心に様々な技術課題を世界的レベルで研究する機関として多くの実績を上げてきました。水理・構造・土質・都市計画の4分野でスタートした教育研究分野に、衛生工学・景観設計・社会システム・維持管理・地域設計などの分野を取り込み、土木工学の量的・質的向上を図ってきました。

そして1997年、理工学部全体の改編が行われて、土木工学科・建設工学科の両学科を統合して「都市工学科」が誕生しました。また、2001年には低平地防災研究センターも研究者5名の低平地研究センターに拡充改組され、2010年にはさらに低平地沿岸海域研究センターとして研究者8名からなる拡充改組が続けられ、機能が強化されてきました。

都市工学科の展開

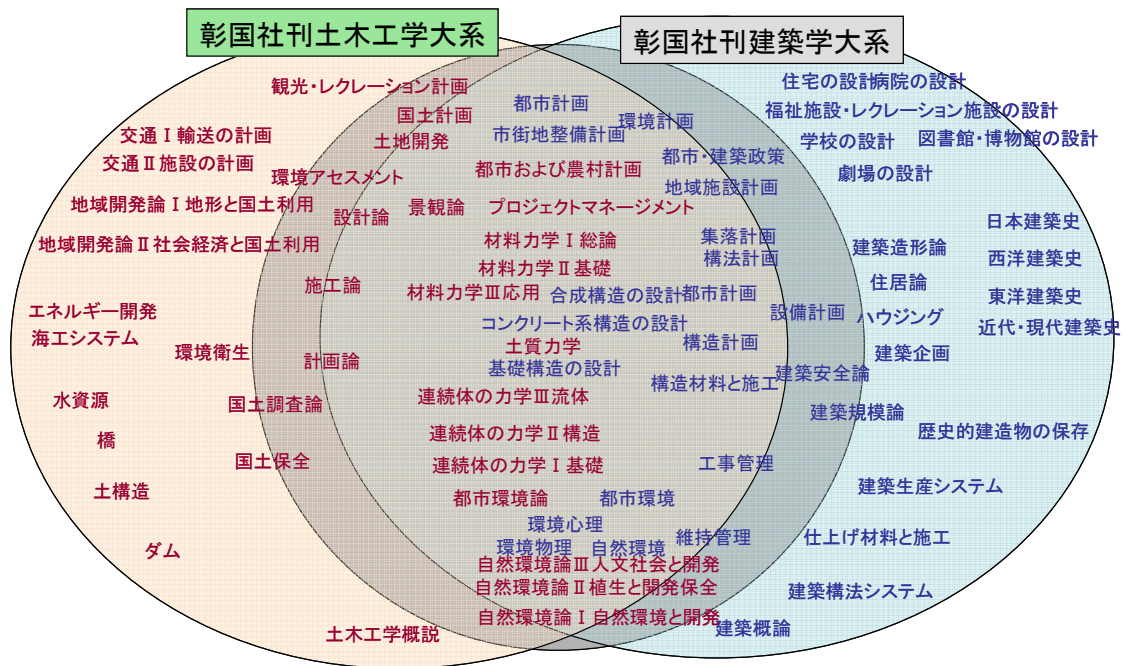
建設工学科や都市工学科では、建築デザイン系教員を招いてきましたが、水辺景観・地域景観・都市景観等を研究教育の対象としたもので、あくまでも土木工学が主体の都市工学科の分野拡充を狙ったものでした。学生からは建築デザイン系の教育システムを充実し、建築を学べるようにして欲しいという要求が強く出ていましたが、教員定員に余裕がなくその要求に応えることができませんでした。

また、都市工学科が主たる教育研究分野としている土木工学は、大きな転換点を迎えています。高度経済成長から、安定経済へ移行するに伴い、道路・港湾・ダム・上下水道等の社会基盤形成に回すことのできる予算が十分に確保できなくなってきました。社会基盤は国の骨格・動脈・静脈の役割を果たしており、その重要性はこれからも変わりませんが、量的には縮小せざるを得ない状況にあります。

このような状況を受けて、都市工学科では2年間にわたる討議を経て、土木系を維持しつつ、建築・都市デザイン系を充実させることとなりました。学生及び地域の建築団体からの強い要望に応えることにしたのです。2006年度(平成18年度)の入学生から「都市環境基盤コース」と「建築・都市デザインコース」二つのコース制を採用した新たな教育研究体制をスタートさせました。

ここで、土木と建築がどの様に違い、どの様に似ているかを考えておきましょう。次のページの図は、土木と建築の分野の専門書を多く出版している彰国社が発刊した土木工学大系と建築学大系のタイトルを図にしたものです。力学・構造・材料・都市・自然環境・維持管理等、多くの共通部分を含んでいることが分かります。

土木と建築の違いと類似性



都市工学科が採用するコース制は上記と良く似ています。土木工学を主体とした「都市環境基盤コース」は土木工学大系の分野を、建築・デザインに主力をおいた「建築・都市デザインコース」は建築学大系の分野が主たる対象と考えてください。真ん中の重なり合った部分はコース共通としました。

2. 都市工学専攻・都市工学科の運営機構

平成 30 (2018) 年度の都市工学科の運営機構のうち、諸君に関係のあるものは次の通りです。

専攻長・学科主任： 柴 錦春 教授

専攻・学科の代表として専攻・学科内の種々の重要な事務を行います。原則として1年間(4月～翌年3月)で交代します。

就職担当教員： 三島 伸雄 教授

本学科及び本専攻の学生の就職に関して指導・助言を行います。原則として2年間で交代します。

学生委員： 伊藤 幸広 教授

学生生活に関する諸問題について、指導・助言を行います。原則として2年間で交代します。

教務委員： 押川 英夫 准教授、 末次 大輔 准教授

学習ならびに教務に関して、指導・助言を行います。原則として2年間で交代します。

チューター教員： 全教員

チューター教員は、入学オリエンテーションのときに決まります。都市工学科の全教員がそれぞれ各学年 5～6 名の学生を担当します。チューター教員は、担当する各学生について、「学修履歴ファイル」を作成します。また、毎学期開講時にはチューター教員との面談があり、前の学期の学修成果について確認し、学修履歴ファイルを更新します。

3. 都市工学専攻・都市工学科の構成メンバー

分野	構 成 員	電子メールアドレス
建設構造学	教授 井嶋 克志	ijimak☆cc.saga-u.ac.jp
	教授 伊藤 幸広 (学生委員)	itoy☆cc.saga-u.ac.jp
	教授 帯屋 洋之	obiyah☆cc.saga-u.ac.jp
	助教 三田 勝也	mita☆cc.saga-u.ac.jp
	技術職員 山内 直利	yamauchi☆cc.saga-u.ac.jp
	技術職員 川崎 徳明	kawasakn☆cc.saga-u.ac.jp
建設地盤 工学	教授 柴 錦春 (専攻長・学科主任)	chai☆cc.saga-u.ac.jp
	教授 日野 剛徳	hinoilt☆cc.saga-u.ac.jp
	准教授 坂井 晃	sakaia☆cc.saga-u.ac.jp
	准教授 末次 大輔 (教務委員)	suetsud☆cc.saga-u.ac.jp
	講師 根上 武仁	negamit☆cc.saga-u.ac.jp
技術職員 齋藤 昭則	saitoa☆cc.saga-u.ac.jp	
環境システム 工学	教授 大串 浩一郎	ohgushik☆cc.saga-u.ac.jp
	教授 山西 博幸 (副専攻長)	yamanisi☆cc.saga-u.ac.jp
	准教授 押川 英夫 (教務委員)	oshikawa☆cc.saga-u.ac.jp
	准教授 Narumol Vongthanasunthorn	si4430☆cc.saga-u.ac.jp
	講師 三島 悠一郎	sk9822☆cc.saga-u.ac.jp
	技術職員 佐々木 広光	sasakih☆cc.saga-u.ac.jp
技術職員 野口 剛志	nogut☆cc.saga-u.ac.jp	
都市・社会 システム学	准教授 李 海峰	haifeng☆cc.saga-u.ac.jp
	准教授 猪八重 拓郎	d3236☆cc.saga-u.ac.jp
建築 デザイン学	教授 三島 伸雄 (就職担当)	mishiman☆cc.saga-u.ac.jp
	准教授 後藤 隆太郎	rgoto☆cc.saga-u.ac.jp
	准教授 平瀬 有人	yujiinh☆cc.saga-u.ac.jp
	准教授 宮原 真美子	myhr☆cc.saga-u.ac.jp
	助教 浏上 貴由樹	fuchi☆cc.saga-u.ac.jp
建築環境 工学	教授 小島 昌一	shokjm☆cc.saga-u.ac.jp
	准教授 中大窪 千晶	knakaohk☆cc.saga-u.ac.jp
第一事務室 (都市 南棟)	事務員 宮沢 麻美	miyazaa☆cc.saga-u.ac.jp
第二事務室 (都市 北棟)	事務員 中村 康子	nakamuya☆cc.saga-u.ac.jp

☆を@に書き換えてください。

4. 都市工学専攻・都市工学科の建物の平面図

「安全の手引」のデータから

第2部 カリキュラムと学習指針

(平成 28(2016)年度以降入学生)

1. 教育理念と学科目の構成

■都市工学科が対象とする教育研究分野

都市工学科の専門教育が対象とするのは、以下の2分野です。

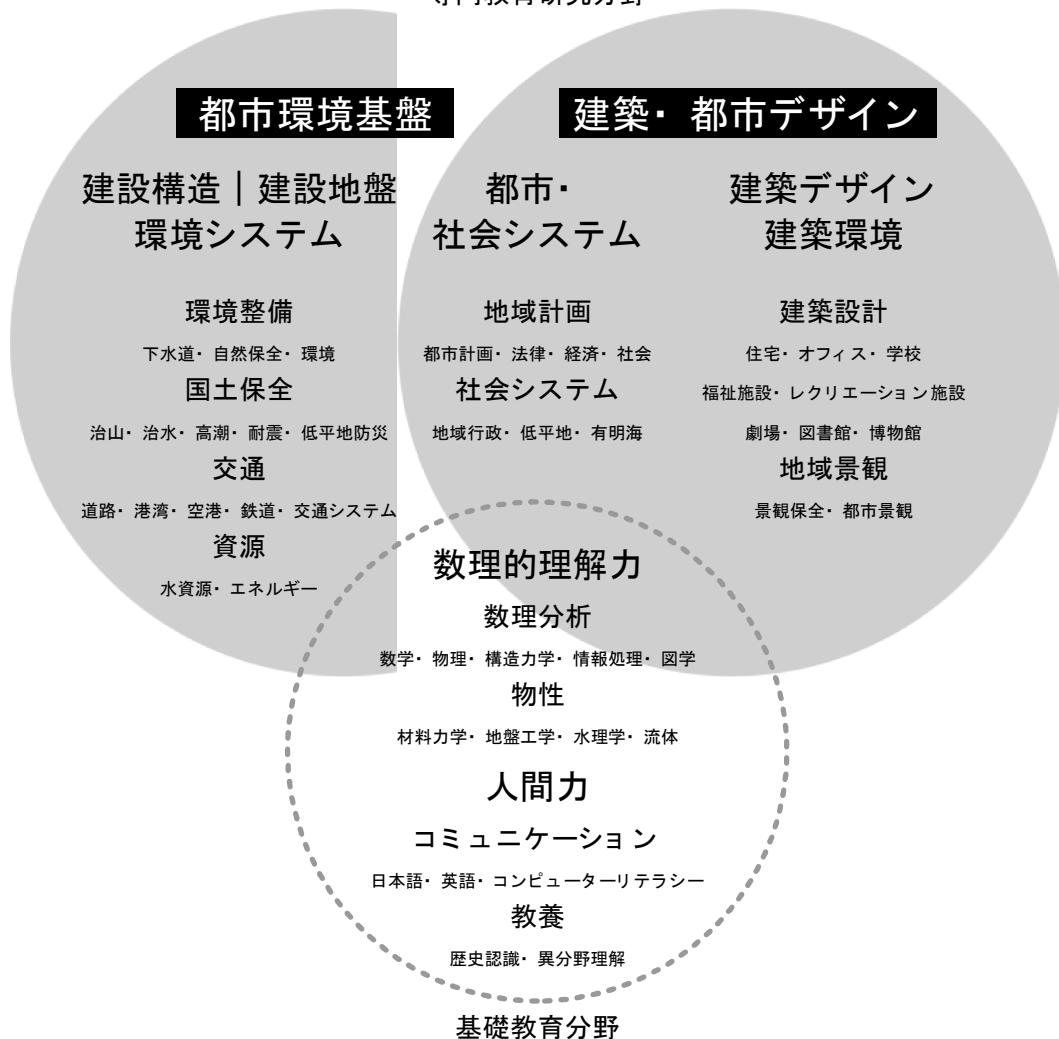
- 1) 社会活動を支える基盤を整備し、安全で快適な生活を送るための基盤を形成する都市環境基盤分野
- 2) 建築物及び地域・都市空間の設計・計画・デザインを行う建築・都市デザイン分野

これら2分野の専門教育を理解し、専門知識の運用能力を高めるためには、基礎となる数的理解・情報処理・力学・構造力学等の数理分析能力を高め、構造物を作り環境を理解するための物性に対する科学的考察能力が必要です。

さらに、都市工学が対象とする分野はいずれもそれぞれの専門家の共同作業となるものばかりなので、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・幅広い教養・異分野理解等の人間力の向上は専門家として生きていく上での必須条件となります。

都市工学科

専門教育研究分野



■教育目標

教養教育＋都市工学専門教育全体

心の知能指数EQ(Emotional Quotient)を高めます

●コミュニケーション能力の涵養

英語によるコミュニケーション

TOEIC 500 点を目指します

日本語によるプレゼンテーション

卒業研究発表、ゼミ発表等を重視します

日本語コミュニケーション

教員・先輩・後輩、さらに実社会との交流を図ります

●教養教育を重視します

異分野理解

教養教育では工学以外の分野を修得することを勧めます

アジア理解

アジア各国の大学との交流を深め、アジア理解を深めます

歴史認識

日本及びアジア地域の歴史認識を深めます

専門教育（必修）＋コース共通科目

数理分析能力を高めます

●数理解解・処理能力の涵養

数的理解力

コンピュータによる数的処理能力を高めます

数学処理能力

微分・積分・微分方程式・確率／統計を使った工学的思考力を訓練します

力学理解

力学・構造解析に関し、演習を含めて重点的にトレーニングします

計測処理

測量・測量実習・実験を通して計測及び処理技術を学びます

●物性理解

コンクリート構造

最も重要な材料コンクリートの性質を理解し、設計します

地盤工学

地盤の性質と力学を学びます

水理・水質

水の力学・水質に関する基礎的事項を学びます

都市・地域とデザインに関する理解を深めます

●都市・地域に関する理解

都市の歴史・構造

都市の歴史・都市構造についての理解を深めます

交通システム

交通の歴史・システムについての理解を深めます

環境システム

地域及び都市の環境問題について学習します

●建築とデザイン

建築

建築の歴史・現代建築・建築計画・建築環境工学の基礎について学びます

デザイン

デザインの基礎に関して学びます

都市環境基盤コース

都市・地域の環境に関する専門知識を習得します

●水環境に関する専門知識

水に関する専門知識

水工学に関する理解を深め、水質改善技術を学びます

水環境理解

地域水環境に関する理解を深めます

●地盤環境

地盤に関する専門知識

地盤工学に関する理解を深めます

地盤環境理解

地盤環境について学びます

建築・都市デザインコース

建築・都市デザインに関する専門知識を習得します

●デザイントレーニング

デザイン演習

デザイントレーニングを徹底的に行います

建築設計演習

建築設計に関する演習を行います

●建築専門知識

建築環境工学

熱・音・光・空気の流れを学び、建築設備に関する知識を学びます

建築設計

各種建築に関する設計を学びます

建築史・建築計画

建築の歴史・建築計画について学びます

■学位授与の方針

学科の目的「都市工学の領域において、専門的知識・能力を持つ職業人となる人材を育成すること」に基づき、以下の学習成果の達成を学位授与の方針とします。また、卒業研究を含めた単位取得数をもとに卒業認定審査を行うとともに、理工学部教務委員会および理工学部教授会において審議し、学位授与の認定を行います。

1. 基礎的な知識と技能

- (1) 自然・文化・社会・生活に関する基礎的な知識を身につけている。
- (2) 英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につけている。
- (3) 多方面からの情報を収集し、適切な判断や分析ができる。
- (4) 基礎的な知識と技法を用いたプレゼンテーション能力を身につけている。

2. 課題発見・解決能力

- (1) 現代社会及び都市工学に関する諸問題を理解し、多面的から考察することができる。
- (2) 都市工学に関する知識や技法を応用し、課題解決に取り組むことができる。
- (3) 都市工学に関する課題解決のため、他者と協調・協働して取り組むことができる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

- (1) 自然環境、文化や伝統、多様な価値観を有する現代社会に配慮し、自主的・自律的に学習を続ける姿勢を身につけている。
- (2) 専門的知識・能力を持ち、倫理観を備えた職業人として社会の健全な発展に寄与しうる姿勢を身につけている。

■育成する人材像

都市工学科は次のような能力を有する人材の育成を目指します。

教養教育+都市工学専門教育全体

1 総合的人間力の高い人材を育成します

- **コミュニケーション能力の涵養**
都市工学科が対象とする事柄を実現するには、多くの人の参加と、参加者同士のコミュニケーションが不可欠です。コミュニケーション・プレゼンテーション能力を有し、環境基盤・都市システム・空間デザインに関する事業に専門家として参加でき、異分野の人々とも交流できる能力を有する人材を育成します。
- **国際交流能力**
都市工学科に入学するほとんどの学生は九州出身者で占められています。21世紀の九州は中国、韓国等の近隣アジア地域との競争と共栄を図る道を歩むものと思われます。アジアに関する歴史認識を持ち、英語及びアジアの言語でコミュニケーションできる国際交流能力を有し、九州発展の中核となる人材を育成します。

2 数理解解力を有し数理分析力を駆使して社会基盤形成に当たる人材を育成します

- **理工学部の学科**
都市工学科は理工学部の学科です。数理解解力、数理分析力、物性理解等の理系の素養を基礎として、都市、環境、デザインを理解・分析・表現する作業を行う人材を育成します。
- **ものづくり**
都市工学科は理工学部の工学部系の学科です。構造、材料、地盤、水理、水質、環境等に関する基礎的能力を有し、社会基盤形成、ものづくりに参画できる人材を育成します

都市環境基盤コース

3 都市・地域の環境保全に活躍できる専門職業人を養成します

- **環境問題に関する基本理解と改善技術**
20世紀が量の拡大の時代であるとなると、21世紀は質の充実の世紀とも言われています。我々の住む都市・地域の環境を豊かなものに復元・改善するための考え方、方法論を身につけた人材を育成します。

建築・都市デザインコース

4 建築・都市に関するデザイン力を有する専門職業人を育成します

- **建築士**
建築に関する専門知識とデザイン力を有し、独立した建築士として活動できる人材を育成します。
- **デザイン分野の拡充**
建築に限らず、デザイン力を駆使して豊かで美しい空間形成、製品生産に参加することのできる人材を育成します。

2. 修得すべき授業科目と履修概要

平成 28(2016)年度以降に都市工学科に入学した諸君は、以下に設定された授業科目の中から卒業に必要な単位を修得しなければなりません。授業科目は、教養教育科目、専門教育科目の 2 つに大別されます。

表 2-1 都市工学科の卒業要件単位（平成 28 年度以降入学生）

区 分		修得すべき単位の概要	単位		
教養教育科目	大学入門科目Ⅰ・Ⅱ	4 単位	31	124	
	基本教養科目	12 単位			
	インターフェイス科目	8 単位			
	共通基礎科目	外国語科目 英語：4 単位 情報リテラシー科目 講義：2 単位・演習：1 単位			
専門教育科目	専門基礎科目（必修科目）	15 単位	93		
	専門科目（必修科目）	26 単位（卒業研究 12 単位含む）			
	専門科目（選択科目 第1群）	4 単位			
	専門科目 （選択科目 第2群）	都市環境基盤コース			44 単位以上 都市環境基盤コース科目及びコース共通科目の中から、 36 単位以上を含んでいること
		建築・都市デザインコース			44 単位以上 建築・都市デザインコース科目及びコース共通科目の中から、 36 単位以上を含んでいること
専門周辺科目	4 単位以上				

卒業するためには、4 年間に 124 単位以上を修得しなければなりません。

■コース制教育システムの概要

都市工学科では、環境部門と都市基盤部門を統合する都市環境基盤コースと建築・デザイン部門を充実した建築・都市デザインコースの 2 コースによるコース制による教育カリキュラムを実施しています。このカリキュラムの主な概要は以下のとおりです。

- ・1 年次では、都市工学科の全ての学問領域の基礎をなす科目（数学・力学・図学など）に関する演習科目が中心となります。
- ・1 年次が終了した時点で、1 年間の取得単位数に基づき、2 年次への進級を判定します。
- ・2 年次前学期には、都市工学科の中核をなす学問領域の重要な基礎知識や技能、工学的現象把握のための考え方について学ぶ、専門基礎科目、専門科目の科目が開講されます。
- ・2 年次前学期が終了した時点で、学生の希望により都市環境基盤コースか建築・都市デザインコースのいずれに所属するかについて選択します。この際、どちらかのコースの希望者がコース定員を超えた場合は GPA（別掲）によって優先順位を決めることがあります。
- ・コース配属後は、都市環境基盤コースの学生は、都市基盤環境コース科目とコース共通科目より、建築・都市デザインコースの学生は、建築・都市デザインコース科目とコース共通科目より、所定の単位を選択履修し修得することになります。

3. 単位取得までの流れと成績評価

「大学設置基準」では、大学卒業までに124単位を修得しなければならないと定められています。ここでは各科目における単位取得までの流れについて説明します。

■履修登録

各学期が始まるまでに履修登録を行わなければなりません。毎学期、履修登録期間（前学期は9月の第4週、後学期は3月の第4週）が定められますので、必ず学生センター掲示板でこの期間を確認し、期間内に登録を終えるようにしてください。学生は総合情報基盤センターのアカウント及びパスワードを用いてLiveCampusというホームページにログインし、時間割を見ながら履修登録等を行うこととなります。詳しくは学生センターホームページ

<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/>

を参照してください。

履修登録できる単位数は、前・後学期それぞれ22単位までとなっています。

ただし、集中講義は、22単位枠には含みませんので、制限枠とは別に受講することができます。また、一定の成績を修めた場合（当該学期に14単位以上修得し、平均GPA2.5以上）は26単位まで登録ができます。

（注意：履修登録の修正と取り消し）

各学期が始まってから数週間後に、履修登録の修正期間が設定されています。各学期の修正期間の詳細については、学期始め（4月始めと10月始め）に学生センター掲示板されます。この修正期間に、LiveCampusホームページから、履修科目の修正や追加、取り消しを行うことが可能です。必ず確認のうえ、間違いなどがある場合は修正してください。

また、履修登録をしたまま講義を受けないでいると、「不可=0ポイント」の成績評価となり、GPAポイント（別掲）を大幅に下げることになりますので、履修を取りやめたい科目がある場合は、この期間に確実に手続きを行ってください。

■講義

1回（1コマ）90分で、毎学期15回（15週）の講義があります。

（注意：学期末の講義代替日）

各講義は、同じ曜日の同じ時限にありますが、その年の祝日の関係や、台風等で休校となった場合の補講などで日時が変更になることがありますので、学生センターで配布される学年暦や掲示板を注意をして確認してください。

■定期試験

定期試験は、各授業科目について学期末の試験期間中に実施されます。試験期間が近づくと、学生センターの掲示板に試験時間割が掲示されます。ほとんどの科目の試験は、講義と同じ曜日・時限で実施されますが、レポートの提出を以って定期試験に代える科目や、定期試験期間外に試験が実施される科目もありますので、必ず掲示を見て確認するようにしてください。

（警告：カンニング）

試験中にカンニングなどの不正行為が発覚した場合は、調査委員会が設置され、事実が確認されれば停学となるほか、当該学期に受験したすべての試験科目の成績が無効となります。

■成績

成績は、秀 (90 点以上) ・優 (80～89 点) ・良 (70～79 点) ・可 (60～69 点) および不可 (60 点未満) とし、不可は不合格です。もし、「不合格」となった場合は次のいずれかに該当します。単位取得のフローチャートを参考にして下さい。

- イ) 「不可」が教務係に提出された場合、正式に「不合格」と決まった訳で、通常、再履修となり、翌年再度同じ科目を受講し、定期試験を受けることになります。ただし、専門教育科目の一部においては再試験が行われる可能性もあります。定期試験終了後、都市工学科掲示板等にて成績および再試験の有無について掲示されます。
- ロ) 「保留」で成績が出された場合、正式な合否の結論は未だ教員の判断に委ねられている訳です。保留期間は当該学期末まで、それまでに成績が出されない場合は自動的に不合格となります。

■再試験、追試験

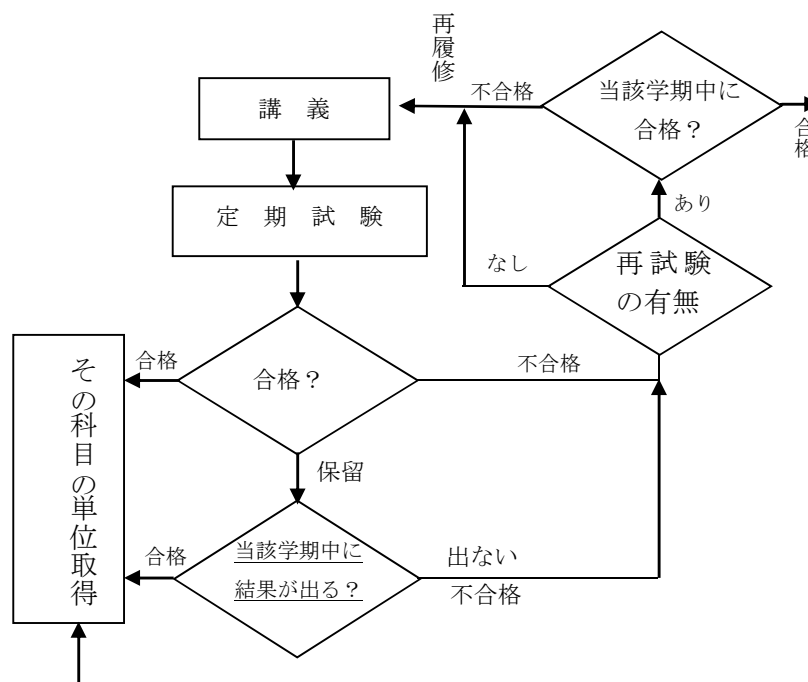
※再試験

再試験とは、定期試験において不合格となった場合に行われる試験であり、必ず行われるとは限りません。近年、再試験は行われない傾向が出てきました。定期試験で合格することが大切です。

※追試験

追試験とは、定期試験の日に止むを得ぬ理由 (病気・忌引等) で欠席したために別の日に行われる試験です。欠席の事由を証明する書類を添えて申請をすれば、追試験が行われることがあります。

単位取得のフローチャート



■GPA (Grade Point Average)

佐賀大学では、秀・優・良・可・不可の評点に加えて、GPA (Grade Point Average) という個々の学生の学修成果を示す指標を導入しています。各講義科目の評点によって 90 点以上 (秀) =4 ポイント・80 点～89 点 (優) =3 ポイント・70 点～79 点 (良) =2 ポイント・60 点～69 点 (可) =1 ポイント・60 点以下 (不可) =0 ポイントと換算し、全受講科目 (履修登録をした履歴がある科目全て) にわたって平均した値が GPA となります。

したがって、全ての科目の評点が90点以上の場合、GPA=4.0、全て「不可」の場合はGPA=0.0ということになります。GPAには「学期ごとGPA」と「通算GPA」があります。

GPAは以下のように利用されます。

1. コースの選択（2年次後学期が始まる前）
コースの選択は、学生個々の希望によりますが、各コースの定員を上回る希望者がある場合は、2年前学期までの通算GPAの高い学生が優先されます。
2. 大学院推薦入試
佐賀大学大学院推薦入試では、3年次末までの成績（GPA）上位者1/3が対象になります。なお、推薦入試で大学院に進学する場合、原則研究室の移動は認められません。

※GPAの注意点

不可の評定をうけた科目を再履修せずにそのままにしておけばGPAを大幅に下げてしまうことになります。逆に、不可となった科目を次の年度に再履修し合格すれば、その科目のポイントは書き換わります。毎学期始めに、個別指導教員（チューター）と相談するなど、各自で周到な履修計画を立ててください。また、履修を取りやめる場合は、履修登録修正期間に「履修取り消し」の手続きをしなければ「不可」（=0ポイント）となりますので、注意してください。

■情報の伝達について

大学では、高校までの「ホームルーム」のような時間が設定されていないので、情報の伝達は全て、掲示板かインターネットを通じて行われます。以下の情報伝達ツールを常にチェックし、重要な情報を取り漏らさないように注意してください。

- 都市工学科北棟（理工学部4号館）2階の講義室前の掲示板
主に都市工学科で開講される講義に関する情報が貼り出されます。たとえば、休講やそれに伴う補講の日程、実験や実習の班分け、試験の可否や再試験・追試験の日程、そのほか就職関連では都市工学科への求人情報や就職セミナーの案内 など
- 学生センター掲示板
主に全学教育機構（教養教育科目）関連の授業関連情報や、大学のアドミッションセンターへの求人情報などが掲示されます。
- LiveCampus システム
授業の休講や日程の変更、持ち物などの連絡をLiveCampusシステムで連絡する先生もいます。授業担当の先生がライブキャンパスに情報を入力すれば、受講者全員の登録メールアドレスに一斉に配信されるシステムです。携帯のアドレスを登録しておけば、リアルタイムで情報を受け取ることが出来ます。

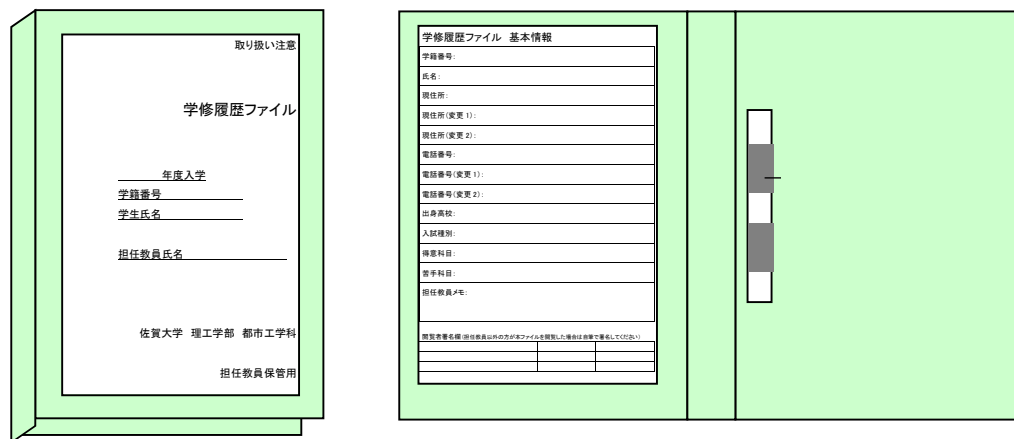
（注意：携帯電話の設定 および メールアドレスの設定変更について）

PCからのメールを拒否するような設定にしていると情報が受け取れない場合があります。ライブキャンパスからのメールを許可するように設定しておきましょう。また、メールアドレスを変更したときには、必ずライブキャンパスの登録も変更するようにしてください。

4. 学修履歴の記録

1. ラーニング・ポートフォリオ
ラーニング・ポートフォリオは、全学統一のシステムとして、学生本人が作成し、チューターがコメントするものです。学期毎の目標・目標達成状況等を記入し、自己確認していきます。毎学期、チューター面談前に作成して下さい。
2. 学習履歴ファイル
この「学修履歴ファイル」は、都市工学科独自に作成しているもので、皆さん自身が毎学期の学修成

果を自己評価し、チューターの先生と情報を共有することにより、大学での学修を、計画性を持って進めていくための資料として作成するものです。毎学期の開講時にチューターの先生から、学修への取り組み方、進路などについて適切なアドバイスを受けることができるだけでなく、前の学期に受講したそれぞれの講義における学修成果を再点検するための助けとなるはずです。



表紙

表紙裏

学修履歴ファイルの装丁 (例)

■学修履歴ファイルの作成と運用上のルール

学習履歴ファイルは、チューターの先生とともに面談を行いながら作成します。このとき、連絡先やこれまでの学習履歴などについての基本情報をファイルに書き込み、「面談調査票」と1年前学期の「履修計画表」を挟み込みます。

学修履歴ファイルは、学生の皆さんに関する重要な個人情報が含まれますので、その情報は厳重に学科が管理します。管理・運用上のルールは以下のとおりです。

1. 学修履歴ファイルを閲覧できるのは原則としてチューターのみであり、指導上の都合により、外の教員が閲覧する場合は、所定の欄に閲覧者が記名し記録する。
2. このほか、後援会総会（8月）時の保護者面談において、保護者が学修履歴ファイルを閲覧することがある。
3. 学修履歴ファイルは、卒研配属時に卒研指導教員に引き継がれ、卒業時に学生本人に返却する。

■毎学期の成績表交付と個別指導教員面談

毎学期の皆さんの成績表は、前学期分は9月1日に、後学期分は3月1日にインターネットのLiveCampusシステムを介して発行されます。その後、前学期は9月の第4週、後学期は3月の第4週に履修登録期間が設定されますので、この期間中に個別指導教員の先生と面談が設定されます。面談の具体的な日時については各個別指導教員の先生から掲示によって指示がなされます。面談時には各自の成績表をLiveCampusシステムからプリントアウトして持参してください。このときファイルに挟み込むのは以下の書類です。

- ①LiveCampus からプリントアウトした成績表
- ②次の学期の「履修計画表」
- ③面談調査票

①は前の学期の履修成果を確認する資料であり、②の履修計画表には次の学期の時間割表を書き込みます（面談までに各自で綿密な履修計画を立てておいてください。）。③は面談の記録です。また、連絡先等の変更があった場合はこの場で修正します。

単位の履修状況のチェックと履修登録は、あくまで皆さん学生自身の自己責任のもとで行って下さい。

5. 1年次における学習

■教養教育科目の履修

(1) 大学入門科目

必修の教養教育科目で、都市工学科では、1年次前・後学期を通して開講されます。都市工学科での学習の進め方に関する詳しいガイダンスが行われた後、都市工学という学問体系に関する講義や大学で必須となる情報収集方法、科学的に記述・説明する方法を学びます。

(2) 共通基礎科目

①外国語科目

外国語科目は1コマの講義が1単位と換算されます。みなさんは1年次から2年次にかけて、英語を毎週1コマ履修することになります。

英語は、2年次後学期まで学科別のクラス分けにより講義が行われます。学年進行とともに正規の試験で単位を取得するように努力して下さい。単位取得に失敗した場合、4年間で卒業できない可能性があります（全学教育科目の履修の手引きを参照してください）。また、希望によりネイティブスピーカーを講師に招いて開講される英会話の科目を受講することが出来ます。ただし、受講制限がありますので、詳細については学生センター教養教育教務係で問い合わせてください。

全学統一英語能力テスト（TOEIC） [1年次前期の受験]

1年次及び2年次にTOEIC-IPテストの受験が義務付けられています。1年次のTOEIC-IPテストは、6月～7月に実施（日時、試験会場などは5月までに周知されます）試験結果を英語B（1年次後学期開講科目の必修科目）及び英語C・英語D（2年次に開講する必修科目）のクラス分けに利用しますので、必ず受験してください。

②情報リテラシー科目

情報基礎概論が開講されます。詳細は、佐賀大学教養教育運営機構発行の「履修の手引」に記載されています。

(3) 基本教養科目

原則として、1年次および2年次に開講されます。卒業研究を受講できる資格として、12単位以上の修得が必要です。

都市工学科では基本教養科目の選択について、何らの制限をも設けていませんが、できるだけ広い分野にわたって科目を履修することを望みます。基本教養科目の詳細は、佐賀大学全学教育機構発行の「履修の手引」を参照して下さい。

（注意：全学共通の教育プログラムの履修について）

全学教育機構では、以下の3つのプログラムが用意されていて、1年次前学期が始まる前に登録すれば履修することができ、プログラムを修了すれば修了証が授与されます。ただし、履修はあくまで「任意」であり、都市工学科のカリキュラムに対して追加で科目を修得する努力や覚悟が必要となります。（詳しくは各プログラムの担当や都市教務委員等に確認のこと）

・ デジタル表現技術者養成プログラム など

各プログラムは「特定プログラム教育科目」「インターフェース科目」「基本教養科目」から構成されており、その修得単位は表2-1の卒業要件に含めることが出来ます。ただし、「特定プログラム教育科目」は、専門科目（選択科目第2群）として卒業単位に算入（上限あり）できるものの、後述の2年次への進級要件（34単位以上）に含めることは出来ません。

■専門基礎科目（必修）

1年次に開講される専門基礎科目はすべて必修で、都市工学科の全学問領域の基礎をなす演習科目（数学・力学・図学）が中心となります。また、専門基礎英語Ⅰでは、都市工学技術者としてのより実践的な「使える英語」を目指して、TOEICの団体受験を義務付けています。

■専門科目（必修）

前学期からは専門科目（必修）の内、建設材料学、後学期に構造力学演習Ⅰ、建築環境デザイン学が開講されます。

■専門科目（選択・第2群）

前学期からは専門科目（選択・第2群）の内、コース共通科目が開講されます。

■2年次進級の要件

1年次前・後学期の成績を基に、2年次への進級の可否が決定します。2年次進級の要件は1) 1年次に開講される教養教育科目、2) 都市工学科で開講される専門基礎科目、3) 都市工学科で1年次に開講される専門科目、のうち34単位以上修得が必要となります。

上記の要件が満たされない場合は、留年となります。また、2年次への進級が認められなかった者は、2年次以降に開講される専門基礎科目、専門科目を履修することができません。

6. 2年次における学習

2年次の前学期には専門基礎科目（選択）が開講されます。後学期には、都市環境基盤コース、建築・都市デザインコースのいずれかに配属され、それぞれのコースの科目（専門科目（選択・第1群、第2群））を履修して、より専門性の高い学習に入ります。また、教養教育科目（基本教養科目・インターフェース科目・英語）も同時に履修しなければなりません。

■教養教育科目の履修

（1）共通基礎科目

①外国語科目

英語は前・後学期それぞれ1コマずつ開講されます。

全学統一英語能力テスト（TOEIC）〔2年次後期の受験〕

2年次のTOEIC-IPテストでは、12月～1月に実施、試験結果を、英語D（2年次後学期開講の必修科目）の成績の一部（30%）として利用しますので、必ず受験してください。試験日時、会場は、掲示またはライブキャンパスで周知されますので、注意しておいて下さい。

②情報リテラシー科目

情報基礎演習Ⅰが後学期に開講されます。

（2）基本教養科目

原則として、1年次および2年次に開講されます。卒業研究を受講できる資格として、12単位以上の修得が必要です。

都市工学科では基本教養科目の選択について、何らの制限をも設けていませんが、できるだけ広い分野にわたって科目を履修することを望みます。基本教養科目の詳細は、佐賀大学全学教育機構発行の「履修の手引」を参照して下さい。

(3) インターフェース科目

原則として、2年次および3年次に開講されます。インターフェース科目では、関連する4つないしはそれ以上の授業科目からなる「インターフェースプログラム」を1つ選択し、4科目8単位の単位を修得する必要があります。

インターフェース科目の詳細は、佐賀大学全学教育機構発行の「履修の手引」を参照して下さい。

■専門基礎科目（必修）

2年次では、後学期に専門基礎英語Ⅱが開講されます。

■専門科目（必修）

専門科目（必修）は、2年次前学期に4科目8単位が開講されます。この8単位を修得していることが卒業研究着手条件となります。

本科目群では、コース進学直前の2年次前学期に、都市工学科の中核をなす学問領域の最も重要な基礎知識や技能、工学的現象把握のための考え方などを身につけることを目標としています。

■専門周辺科目

専門周辺科目には、理工学部内の他学科によって2年次以降に開講される区分Ⅰ、3年次生以上向けに開講される区分Ⅱがあります。区分Ⅰと区分Ⅱの中から、4単位以上修得しなければなりません。

また、都市工学科の学生は、専門周辺科目区分Ⅰの「理工学基礎科学」、もしくは区分Ⅱの中から少なくとも2単位は修得しなければなりません（クロス履修）。詳細については「理工学部で何を学ぶか」に掲載されている専門周辺科目の一覧表を参照してください。

■コースへの配属

2年次の前学期終了時に、都市環境基盤コース、建築・都市デザインコースのいずれに進むかの選択を行うこととなります。それぞれのコースの配属数の目安は以下のとおりです。

都市環境基盤コース	2年次に進級した人数の	2/3
建築・都市デザインコース	2年次に進級した人数の	1/3

コースの選択は、学生個々の希望によって決定します。ただし、定員を上回る希望者がある場合は、2年次前学期までの成績（GPA）によって配属を決定します。

■両コースの教育目標

都市環境基盤コース

都市の環境基盤は、自然との共生、防災なども含め、地域ニーズに対応した新しいあり方が求められています。本コースは水環境、地盤工学といった科目群で構成され、卒業後の土木・建設分野において必要となる専門的な知識とその運用、ならびに総合的な問題解決力の修得を図ります。そして、これからの社会基盤整備に技術的に対応できる人材を育てます。

建築・都市デザインコース

建築や都市空間の設計およびデザインは、総合的にものごとを組上げていく性格を持っています。本コースでは、設計・デザイン系の演習科目およびそれを補完する理論や技術に関する科目の2つの科目群を軸に教育します。そして現代に対応した建築や地域に根ざしたデザインの方法を模索し、これからの地域社会のあり方を提示できるような人材を育てます。

■コースオリエンテーション

コースに配属された後の適当な時期に研修によるコースオリエンテーションが行われます。

■専門科目（選択・第2群）の履修

表 2-1 にあるように、都市環境基盤コースに配属された人は、「都市環境基盤コース科目及びコース共通科目から 36 単位を含み、44 単位以上修得すること」、建築・都市デザインコースに配属された人は、「建築・都市デザインコース科目及びコース共通科目から 36 単位を含み、44 単位以上修得すること」、が卒業要件となっています。

都市工学科では、以下の修得単位を 8 単位を上限として 専門科目（選択・第2群）の単位とすることができます。

- ア. 専門科目の選択科目第 1 群の卒業単位を超えて修得した科目
- イ. 他学科で開講される専門科目
- ウ. 他学部で開講される専門教育科目
- エ. 全学教育機構で開講される特定プログラム科目

7. 3 年次における学習

■教養教育科目の履修

インターフェース科目

原則として、2 年次および 3 年次に開講されます。インターフェース科目では、関連する 4 つないしはそれ以上の授業科目からなる「インターフェースプログラム」を 1 つ選択し、4 科目 8 単位の単位を修得する必要があります。

インターフェース科目の詳細は、佐賀大学全学教育機構発行の「履修の手引」を参照して下さい。

■専門科目（選択・第2群）の履修

都市環境基盤コースに配属された人は、「都市環境基盤コース科目及びコース共通科目から 36 単位を含み、44 単位以上修得すること」、建築・都市デザインコースに配属された人は、「建築・都市デザインコース科目及びコース共通科目から 36 単位を含み、44 単位以上修得すること」、が卒業要件となっています。

■専門科目（選択・第1群）の履修

3 年次後学期には、選択科目の第 1 群として「都市工学ユニット演習」（4 単位）が開講されます。都市工学科の各分野に対応したユニット科目が用意されていて、みなさんは学期始にこのなかから一つ以上を選択して履修します。卒業研究に入る前の専門教育の総仕上げとして、これまで学習したことを総合的に取り扱うプロジェクト型の演習科目です。

編入生が修得するべき単位数の詳細については、「理工学部で何を学ぶか」の佐賀大学理工学部履修細則を参照してください。

■卒業研究着手資格判定

3年次後学期終了時点で卒業研究着手資格を得るための必要単位は、次の通りです。

理工学部規則別表に定める卒業要件単位を106単位以上修得するとともに、次の各項を満たした者に対して認められる。

- ア 基本教養科目、大学入門科目Ⅰ・Ⅱ及び共通基礎科目の卒業要件単位を満たしていること。
- イ インターフェース科目を6単位以上修得していること
- ウ 専門基礎科目の必修科目及び「卒業研究」を除く専門科目の必修科目の単位を全て修得していること。
- エ 専門科目の選択科目第1群の卒業要件単位を修得していること。
- オ 専門周辺科目の修得単位が4単位以上であること。

■研究室配属

卒業研究着手資格判定で、「合格」と判定されれば、判定結果の公表後、卒業研究を行なう研究室を決めます。

8. 4年次における学習

4年次は、主に下記の卒業研究（通年、12単位）に取り組みますが、卒業要件単位すべてを取得する必要があります。卒業研究の提出や発表は後期の試験期間前後に実施されるため、前学期までに卒業研究以外の単位を取得しておくことが望まれます。

■「科目等履修生制度」の利用について

4年生になると、「科目等履修生制度」を利用して、学部学生であっても、指定された大学院の授業科目を履修することができます（検定料・入学科および授業料の納付は必要ありません）。

この制度を利用し、指定された大学院の授業科目を履修する場合は、理工学部の窓口で、科目等履修生入学願書（大学院授業科目用）を受け取り、提出しなければなりません。願書の提出期限は、前期は2月末・後期は7月末となっていますので、期限までに必ず手続きを行ってください。

工学系研究科都市工学専攻では、以下の6科目を指定しています。

「計算力学特論」（前期）・「環境地盤工学特論」（前期）・「水環境情報学特論」（前期）・

「都市デザイン論」（前期）・「都市構成システム論」（後期）・「建築環境設計特別演習」（後期）

なお、これらの科目の単位を修得した場合、学部の卒業単位には算入することはできませんが、大学院進学後、申請により、大学院博士課程の修了要件に算入することができます。

■卒業研究

卒業研究（通年、12単位）は4年間の大学生活で学んだ知識を基礎にして、各研究室の教員の指導の下に1つの研究、計画をまとめ上げる能力の養成を目的としています。

9. 各授業科目の概要

都市工学科で開講予定の授業科目の概要を示します。詳細なシラバスについては、LiveCampus システム上のオンラインシラバスを参照してください。

■ 1 年前学期の授業科目

微分積分演習 I (Exercise in Calculus I)

専門基礎科目 (必修 2 単位)

担当教員：押川英夫

工学、特に建設工学や土木工学の分野で必要とされる微積分について学習する。高校で学んだ数学と大学の専門科目に必要な基礎数学を学ぶ。ここでは特に、1 変数関数の微分と積分について学習する。さらに、講義で学んだ内容について演習を行う。

線形代数演習 (Exercise in Linear Algebra)

専門基礎科目 (必修 2 単位)

担当教員：中大窪千晶

都市工学全般に必要とされる線形代数の基礎について学習する。行列とベクトルの数学的取扱い (内積・外積、行列式、固有値問題、連立一次方程式など) を習得するために問題を多数解く演習を行い、理解を深める。

力学演習 (Exercise in Mechanics)

専門基礎科目 (必修 2 単位)

担当教員：帯屋洋之

都市工学科の科目を学ぶ際の基礎となる、力の定義、力の釣り合い、質点系の運動、仕事とエネルギー、等、力学の基礎を学習する。講義で学習した項目を、続けて行う演習で理解を確実なものにする。学習目標を以下のように設定する。

- (1) 土木・建築における力学の位置づけと必要性を認識し、基本的な定式化の概念を習得する。
- (2) 力とは何か、力をどう表すか、力が釣り合うとは何かなど力の基礎を理解し運用する。
- (3) 動力学の基礎となるニュートンの第 2 法則を用いているいろいろな運動を表す。

工学基礎演習 (Foundational Exercise for Engineering)

教養教育科目 (必修 1 単位)

担当教員：猪八重・三島悠・根上

大学での専門科目を進めていく上で、必須となる数学・物理の基礎学力をつける。また、工学の基礎となる単位や有効数字、精度についての知識を身につける。

学習目標を以下のように設定する。

- (1) 高校レベルの数学 (特に、三角関数、微分・積分、ベクトル) の復習
- (2) 高校レベルの物理 (特に、力学) の復習
- (3) 工学の基礎 (単位の扱い、有効数字、精度など)

建設材料学 (Construction Materials)

専門科目 (必修 2 単位)

担当教員：伊藤幸広

構造物の計画・設計・施工・維持管理のどの段階においても、使用材料に関する基本的な知識は不可欠である。建設分野で使用される材料は種類が多いが、その中でも主要な材料を取り上げ、製造方法・物理的性質・力学的性質・試験法・用途・規格などについて学ぶ。

測量学 (Surveying)

専門科目 コース共通科目 (選択 第 2 群 2 単位)

担当教員：三島悠一郎

ある点の地球上における平面および高さの位置を決めるための技術が測量である。その測量の概念、測量の方法、測定値の処理方法などについて講義する。学習目標は以下のとおり。

- 1) 測量の概念を理解する。

- 測定されるデータは誤差を含むとし、測定値に含まれる誤差の処理方法を理解する。
- 地球上の位置を決めるためには長さ、角度、高さを測定する必要がある。これらの測定方法と測定器械の特性や構造を理解する。

測量学実習 (Field Work of Surveying)

専門科目 コース共通科目 (選択 第2群 1単位)

担当教員：三島悠一郎・根上武仁

測量学Ⅰの講義で得た測定値の処理や各種測量を実習し、使用器械の扱い方や測定方法を習得する。

- 距離測量
- チェーン測量
- 角測量 (a. 単測法 b. 反復法)
- 水準測量 (a. 構内水準測量 b. 一等水準点往復水準測量)
- 平板測量 (a. 放射法・複道線法 b. 交会法)

情報基礎概論 (Information Basic Introduction)

教養教育科目 (必修2単位)

担当教員：柴錦春・帯屋洋之

インターネットが急速に普及し、IT革命によって生活環境が激変している今日、できるだけ早い時期にコンピュータに慣れ親しみ、学部時代に様々な局面でそれを活用できるようになることを目標に学習を進める。授業では、インターネット・電子メール・ワープロ・表計算およびプレゼンテーションなどの演習を通して、情報や情報システムに関する基礎概念、コンピュータの動作原理や情報通信技術などを実践的に修得していく。

大学入門科目Ⅰ (University Admission Subject I)

教養教育科目 (必修2単位)

担当教員：中大窪・日野・三田・淵上ほか

本講義は次の三つの内容によって構成される

- 都市工学科の教育システムを理解し、都市工学と関わるモノづくりの対象や範囲、社会との関係について理解を深める。
- 地域の施設・構造物を見学し、その技術等の内容をプレゼンテーションする。
- 工事現場や施設に実際に訪れ、その専門家によるレクチャー等を通して具体的なモノづくりを理解する。

■ 1年後学期の授業科目

微分積分演習Ⅱ (Exercise in Calculus II)

専門基礎科目 (必修2単位)

担当教員：坂井晃

本講義では多変数関数の微積分(偏微分・重積分)、簡単な微分方程式(変数分離形)を中心に述べ、多数の演習を加えて、都市工学における問題解決の手段としての数学の考え方・捉え方を教える。

- 重積分の数学的な意味を理解し、積分順序・変数変換などを用いて、最も効率的な解法を選択して計算ができるようになること。また、断面二次モーメントの計算など工学的な問題への応用について理解すること。
- 2階までの線形の常微分方程式について、その数学的な構造を理解すること。また、工学的な問題(たとえば、流体の流出問題)を微分方程式として表現し、これを解いて特殊解を得るまでの一連の手順を習得すること。

都市工学概論 (Outline of Architecture & Civil Engineering)

専門基礎科目 (必修2単位)

担当教員：帯屋・大串・三島伸

本学の都市工学分野は「都市環境基盤コース」と「建築・都市デザインコース」によって構成され、共通系がその中間領域をカバーしている。本講義では、その都市工学の体系や各学問分野(基盤系、共通系、建築系)の諸相について、講義と実習により理解するとともに、その先にある最新の研究トピックに触れる。講義は各分野の複数の教員により提供される。

専門基礎英語 I (Technical English I)

専門基礎科目 (必修1単位)

担当教員：ナルモン

企業活動のグローバル化を反映して、技術者に求められる重要な資質(知識・スキル)の一つとして「外国語によるコミュニケーション」能力が上位にランクされている。本講義では外国語として英語を取上げ、TOEICで測る英語の力、即ち「聴く力」と「読む力」に基づくコミュニケーションの能力の向上を図る。

図学 (Descriptive Geometry and Graphics)

専門基礎科目 (必修2単位)

担当教員：三島伸雄・涸上貴由樹

図学は、空間にある物体、あるいは図形を平面上に正確にかき表すことを考究する学問体系であり、工学において立体を正しく認識するために必要な技術である。本講義では、演習形式を交えながら講義する。そして、建築や都市デザインなどの専門分野で必要とする空間表現力を身につける。

構造力学演習 I (Exercise for Structural Mechanics I)

専門科目 (必修2単位)

担当教員：帯屋洋之

静定・不静定の平面骨組構造物の構造解析を行うための基礎的な概念を学び、特に「曲げモーメント」「せん断力」「軸力」の部材断面に働く内力の意味と断面設計の考え方について重点的に講義する。以下の事項を学習目標とする。

- 1) 部材内部に働く力としての軸力、せん断力、曲げモーメントの意味を理解し計算できる。
- 2) 静定骨組構造に様々な荷重が作用する場合の軸力、せん断力、曲げモーメントの分布状態を理解し、図化できる。
- 3) 軸力部材における軸力と伸びの関係、曲げ部材における曲げモーメントと曲率の関係および断面形状の影響について理解し、縁応力度を計算できる。

建築環境デザイン学 (Environmental Design)

専門科目 (必修2単位)

担当教員：小島昌一

建築の内部には必ず人間が存在する。従って、人間の心理や人体の生理・感覚といった要素を念頭に置いて建築はデザインされるべきである。建築環境工学は、これらの要素と建築の内部空間のあり方を工学的な手法で結びつけて考える学問である。この講義では、どのような建築環境が居住者あるいは在室者の快適性を満たすのか、建築環境工学の視点ではどのような建築をデザインするべきかについて講義する。

統計数理 (Statistical Mathematics)

専門科目 コース共通科目 (選択 第2群 2単位)

担当教員：小島昌一

我々が直面する問題には不確定要素が含まれていることから、確率論的な取り扱いが不可欠である。また、計画をするに当たっては、膨大な統計データを処理し、有用な情報を抽出する必要がある。そこで、確率・統計の基礎理論を学ぶとともに、実際問題への適用を中心に講義・演習を行う。

大学入門科目 II (University Admission Subject II)

教養教育科目 (必修2単位)

担当教員：末次・小島・押川ほか

本講義は次の三つの内容によって構成される

- 1) 都市工学分野におけるキャリアデザインについて理解し、自ら構想する。
- 2) 大学生としての情報収集方法を習熟し、環境配慮や安全衛生についても理解する。
- 3) 工学的な情報を収集し、レポート(科学技術論文の形式に基づく文書)を作成する。

■ 2年前学期の授業科目

土質力学 (Soil Mechanics)

専門科目 (必修2単位)

担当教員：坂井晃

地盤の構成と状態の基本的性質、土中の水の流れ、載荷重を受けるときの地盤内の応力状態および地盤の変形・強さの基本的事項について学ぶ。具体的内容は、地盤の生成、土の基本的性質、土の締固め特性、土中水の流れ、地盤内応力、土の圧縮・圧密、土の強さなどである。

水理学 (Hydraulics)

専門科目 (必修2単位)

担当教員：大串浩一郎

住宅における給排水から、都市の水環境、河川、湖沼、海洋に至るまでのあらゆる水問題を力学的に扱う際の数理的な基礎を形成する学問を「水理学」という。本講義では、流体運動の基礎原理について学び、「流れ」の捉え方、考え方を身につけるとともに、自然現象への理解を深める。

現代建築概論 (Outline of Contemporary Architecture)

専門科目 (必修2単位)

担当教員：平瀬有人

現代の建築事情について、視覚的伝達手段を用いて概観する。単にデザインのみにとどまらず、社会的背景や生産、技術的側面も踏まえた紹介を行う。建築や都市デザインに対する早い段階での多様な関心を喚起したい。

アーバンデザイン (Urban Design)

専門科目 (必修2単位)

担当教員：三島伸雄

アーバンデザインの考え方および様々な手法について講義する。特に、アーバンデザインの領域やプロセス、都市空間のあり方とそのデザイン手法を学ぶ。そして、魅力ある都市とは何か、それをどのように創造していくかを考える。

工業数学 (Mathematics for Engineer)

専門科目 コース共通科目 (選択 第2群 2単位)

担当教員：井嶋克志

都市工学科で取り扱う多くの現象は微分方程式、積分方程式などの方程式で表される。物体の運動、振動・波動、熱伝導、圧密、浸透などがどのような過程を経て数学的な記述がなされるかを学習し、それらを数値的に解く手法として開発された差分法、有限要素法の基礎を学ぶ。

基礎設計製図演習 (Foundational Exercise for Drafting and Design)

専門科目 コース共通科目 (選択 第2群 2単位)

担当教員：後藤隆太郎・淵上貴由樹

都市工学における設計の基礎的能力を養う。3次元空間を2次元図面に表現する能力、2次元の図面から3次元空間を想像して形にする能力、3次元空間を自らつくる基礎的技術と能力、第3者に伝達するプレゼンテーション能力の修得を図る。すなわち、設計製図に必要な基礎的技術の教育を行うとともに、小空間を題材とした設計トレーニングを行う。

計画システム分析 (System Analysis)

専門科目 コース共通科目 (選択 第2群 2単位)

担当教員：猪八重拓郎・李海峰

プロジェクトを所定の工期内に完了するためには、各作業をどのように管理すればよいか、突発的な条件の変化によりある作業工程の変更が余儀なくされたとき、以降のスケジュールをどのように修正するか、工期の遅れを取り戻すため作業短縮をどのように行えばよいか等の問題を取り扱うのに有効な工程管理手法である PERT を中心に講義を行う。

構造力学演習Ⅱ (Exercise of Statics of Structures Ⅱ)

専門科目 コース共通科目 (選択 第2群 2単位)

担当教員：井嶋克志

構造力学基礎の静定構造物を中心とした授業内容に引き続き、静定梁の変形および不静定梁の支点反力、部材力、変形等の計算法およびその考え方について授業を行う。単に計算を行うことだけでなく、仮想仕事の原理や重ね合わせの定理を理解するとともに、どのような骨組構造でも曲げモーメントの概略図を簡単に描けるようになってもらいたい。

技術者倫理 (Ethics for Engineer)

専門科目 コース共通科目 (選択 第2群 2単位)

担当教員：根上武仁

技術者に求められる倫理を中心に、個人の倫理、組織の倫理を考えられる材料を提供し、各個人でまとめて発表、議論する。

- 1) 倫理について理解する。
- 2) 自主的に資料を集め、論理的に考察する能力を養う。
- 3) 自らの考えを発表し、議論する能力を養う。

■ 2年後学期の授業科目

専門基礎英語Ⅱ (Technical English Ⅱ)

専門基礎科目 (必修1単位)

担当教員：柴錦春

コミュニケーション英語で重点的に養成された、「聴く力」と「読む力」を基礎に、次のステップとしてライティングの力、即ち「書く力」に基づくコミュニケーション能力の習得を図る。ここでは、技術的な学術論文を書く(テクニカルライティング)までのレベルは想定しない。Eメールなど、前置きなしの用件を書く能力、及びプレゼンテーション表記で必要となる短文を書く能力を養成する。特に都市工学分野の専門用語(テクニカルターム)に関する語彙力の強化を図る。都市工学科の専門分野に関連した題材を設け、英語によるプレゼンテーションを課して最終課題とする。

地盤工学実験演習 (Exercise of Geotechnical Engineering)

専門科目 都市環境基盤コース科目 (選択 第2群 2単位)

担当教員：根上・日野・末次

土の基本的性質・浸透・地盤内応力・圧密・強さに関する土質実験と演習を行い、土質力学の内容について理解を深める。土質実験では、土の基本的性質および力学特性を求めるための実験を行い、土質パラメータの意味とその特性について把握する。演習は、土質力学で学んだ基本的事項の理解を深めるとともに、地盤工学上の諸問題(浸透・圧密・地盤内応力・せん断)に対する基本的な解析方法について計算演習を行う。

水工水理学 (Hydraulics and Hydraulic Engineering)

専門科目 都市環境基盤コース科目 (選択 第2群 2単位)

担当教員：押川英夫

水理学の基礎理論を応用して、2つの基本的な流体の流れ方、管路流れと開水路流れについて学ぶ。上下水道などの管路の設計の際に必要な管路流れにおける各種損失や圧力の計算、河川やクリークなどの自由水面をもつ開水路の流れ(流れの遷移、水面形の計算など)について理解する。

水環境システム工学 (Water Environmental Engineering)

専門科目 都市環境基盤コース科目 (選択 第2群 2単位)

担当教員：ナルモン

水環境をシステム工学の観点、すなわち、河川、湖沼などの水域における自然システムと人工的なシステムとの間には物質輸送・変換現象としての共通点が多い。このようなシステムにおける素過程(流れ過程・生物反応・物質輸送など)について基礎的な知識を習得する。

鉄筋コンクリート工学 (Reinforced Concrete)

専門科目 都市環境基盤コース科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員:伊藤幸広・三田勝也
コンクリートは、圧縮力には強いが引張力には弱い。この弱点を補うために引張力の生じるところに鉄筋を配置するのが鉄筋コンクリート構造である。本講義では鉄筋コンクリート造の土木構造物の断面設計の考え方である限界状態設計法を学ぶ。特に、基本となる終局限界状態における曲げを受ける鉄筋コンクリート構造の安全性照査を中心に必要な知識を習得する。

構造解析学 (Structural Analysis)

専門科目 コース共通科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員:帯屋洋之
現代の土木・建築構造物の設計には設計ソフトウェアを用いた構造計算が必須である。しかしながら、ソフトウェアで用いられている理論の特性を理解しないままこのようなソフトウェアをブラックボックスとして使用した場合、計算結果に対する正しい評価ができず、重大なミスにつながることも少なくない。本講義では、応力法による基本的な不静定構造計算手法であるたわみ角法の学習から導入し、コンピュータによる構造計算に拡張が用意な変位法について学習し、プログラミング演習を行うことにより、構造計算の仕組みを理解し、これを運用できる能力を養うことを目標とする。

都市解析演習 (Exercise on Urban Analysis)

専門科目 コース共通科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員:猪八重拓郎
本演習では、「地理情報」に関する講義とコンピュータを利用した各種の地理情報処理を都市解析に適用する方法について演習するものである。まず、地理情報システム(GIS)ソフトウェアの基本操作と各種地理情報の検索・収集について学ぶ。そして、これまでの「都市計画」などの講義で得た知識等を活かして総合課題に取り組み、様々な都市解析を行う。

都市計画 (Urban Planning)

専門科目 コース共通科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員:猪八重拓郎
人の生活する都市を各種都市施設・人とその活動・その土地本来の自然と風土を構成要素とする有機体として捉え、都市の姿や形を形成する都市構成の基本的な原理について考察する。講義では、まず代表的な歴史的都市を対象に都市空間構成の原型を辿り、次に20世紀前半から1980年頃まで存在した著名な近代都市論をもとに都市構成の理念を把握し、最後に20世紀後半から21世紀に現れているヨーロッパやアメリカ及びアジアの都市における21世紀の都市構成の端緒を示すと考えられるトピックやトレンドについて、それらの特徴と意義について説明する。

建築都市デザイン演習Ⅰ (Exercise for Architecture and Urban Design I)

専門科目 建築・都市デザインコース科目 (選択 第2群 3単位) 担当教員:平瀬・宮原・高木(非常勤講師)・淵上
住宅や文化施設等の設計を通じて、与えられた条件から建築空間をまとめていくための初歩的な設計訓練を行う。人々が生活する身近な都市環境のあり方を捉え、場所に適した建築空間を構想し表現する能力のレベルアップを図ることを目的としている。

居住環境計画 (Planning of Dwelling Environment)

専門科目 建築・都市デザインコース科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員:後藤隆太郎
建築をつくるうえで基礎的な技術となる建築計画の思想と理論を学ぶ。本講義では特に住まいやその集合を取り上げ、それに求められる様々な要求を理解し、計画的に対処する手法について理解を深める。

建築空間史Ⅰ (History of Architecture I)

専門科目 建築・都市デザインコース科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員:宮原真美子
建築や都市は長い間の営為の積み重ねであり、それらを歴史的に検証することは、現在の位置を把握し、これからの創造行為を築いていく大きな糧となる。建築空間史Ⅰでは、古代から近代までの西洋の建築を取り上げ、背景の技術や生産にも配慮しながら歴史的視点から主な空間的特質について講義する。

建築環境工学 I (Architectural Environmental Engineering I)

専門科目 建築・都市デザインコース科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：中大窪千晶
建築物内外の環境が使用目的に対して十分な性能を有することを追求する分野を建築環境工学という。高度な環境水準を維持しつつ、省エネルギーへの要請が高まっている現在、この分野に対する理解を深めることの意義は大きい。本科目では建築環境工学の全体像とその役割、建築環境工学と建築設計の関係を把握するとともに、建築環境デザインに関する基礎的事項(熱・空気・光・音環境等)を習得する。

鉄筋コンクリート構造 (Reinforced Concrete Structures)

専門科目 建築・都市デザインコース科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：伊藤幸広
コンクリートは、圧縮力には強いが引張力には弱い。この弱点を補うために引張力の生じるところに鉄筋を配置するのが鉄筋コンクリート構造である。本講義では鉄筋コンクリート造の土木構造物の断面設計の考え方である許容応力度設計法を学ぶ。さらに、部材の終局耐力の算定において必要となる終局状態に関する知識と考え方を習得する。

情報基礎演習 I (Information Basic Exercise I)

教養教育科目 (必修 1単位) 担当教員：大串浩一郎・中大窪千晶
工学、および実務における計算機シミュレーション、数値解析に関する基礎的な知識や感覚を身につけるため、基礎的なプログラミングとアルゴリズムに関する演習を行う。

■ 3年前学期の授業科目

地盤工学 (Geotechnical Engineering)

専門科目 都市環境基盤コース科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：柴錦春・末次大輔
まず地盤材料の強度特性及び影響要因を学習する。次に地盤工学の基礎知識を用いて種々の土質解析の方法を学ぶ。主に擁壁に作用する土圧の計算、基礎の支持力の計算、斜面の安定解析などを行う。

地盤環境学 (Environmental Geotechnics)

専門科目 都市環境基盤コース科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：日野剛徳
地盤環境問題には、人為的な特定の汚染源に基づく問題とともに、近年では地下水揚水等間接人為的な要因に基づくと考えられる問題も生じてきている。本授業では、これらの問題に関する最新の取り組みについて述べ、その理解に努めることとする。

水工学実験演習 (Exercise of Hydraulics)

専門科目 都市環境基盤コース科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：押川英夫・大串浩一郎
水理学・水工水理学で学んだ基礎理論を実際の流れの観察で理解する。また、各種の演習を行うことで、応用的な力を育てる。ダムの越流と常流・射流の実験、管路の摩擦損失の実験、開水路の流速分布の実験、オリフィスからの流出の実験、ベルヌーイの定理や運動量の定理を用いた水理計算、管路流れの計算、1次元開水路流の水面形計算、などを取り扱う。

環境衛生工学 (Environmental and Sanitary Engineering)

専門科目 都市環境基盤コース科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：三島悠一郎
環境衛生工学の変遷、上下水道の計画論と水処理・下水処理技術、水域直接浄化技術について学び、都市における衛生工学の果たす役割を理解する。

環境生態工学 (Environmental and Ecological Engineering)

専門科目 都市環境基盤コース科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：山西博幸
人為的作業がもたらす自然界への影響とそのレスポンスについて土木工学的知見と生態学的知見とを

加味した生態工学的アプローチの考え方やそのデータ収集・解析手法を学ぶ。また、実務におけるいくつかのトピックを拾い出し、土木環境工学実務者が果たすべき役割などについての理解を深める。

コンクリート構造工学 (Reinforced Concrete Structures)

専門科目 都市環境基盤コース科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：伊藤幸広・三田勝也
鉄筋コンクリート工学で学習した内容を引継ぎ、終局限界状態におけるせん断問題と使用限界状態および疲労限界状態における鉄筋コンクリート構造 (RC) の安全性照査に必要な知識を習得する。さらに引張力が発生するところに戦略的に予め圧縮力を導入しておくプレストレストコンクリート構造 (PC) について、その原理と設計で必要となる基本知識を習得する。

鉄骨構造学 (Steel Frame Structure)

専門科目 コース共通科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：帯屋洋之
コンクリートと並び、土木・建築の基本材料である鉄 (鋼) 製の部材によって構成される鉄骨構造の設計に必要な基礎知識について講義する。本講義では、鉄骨構造の形式と構成、鋼材の性質、構造用鋼材の種類、ボルトなどの知識と、引っ張り力・圧縮力・曲げ応力を受ける柱・はりなどの部材の設計の基本を理解することにより、鉄骨構造の設計を可能とする基礎的な知識・能力を養う。

構造・材料実験演習 (Experiment and Exercise for Structural Mechanics and Material)

専門科目 コース共通科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：伊藤幸広・三田勝也
実験により力学現象や物理現象を観察・計測したり、定められた試験法に基づいて試験を行い対象の品質や性質を評価することは、講義で得た知識との整合性をとる上で非常に重要である。本実験演習では、コンクリート材料と鉄筋コンクリート構造に関するいくつかの項目について実験と演習を行う。

都市防災工学 (Disaster Prevention Engineering)

専門科目 コース共通科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：末次大輔ほか
地球温暖化は、海面上昇とともに気象現象の激化、自然災害・都市災害の危険性を増加させている。特に、各種の自然災害・都市災害が発生してきた我国の災害の歴史と変遷、構造と素因・誘因を理解し、各種都市災害の特徴と対策を学ぶ。また、我国の地域防災計画と防災・減災行政の仕組みについて、それらの概略を講義する。

建築都市デザイン演習Ⅱ (Exercise for Architecture and Urban Design II)

専門科目 建築・都市デザインコース科目 (選択 第2群 3単位) 担当教員：平瀬・後藤・宮原
都市の歴史的環境や自然的環境を生かした文化施設や教育施設等の設計を通じて、都市環境の改善に資する建築的提案を試みる。特徴のある敷地を対象とし、様々な要求を満足させながら、最終的に形態、空間にいたるまでを提案する。

地域施設計画 (Planning of Community Facilities)

専門科目 建築・都市デザインコース科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：後藤隆太郎
学校、図書館、病院、コミュニティ施設などの主な地域施設を取り上げ、施設計画の理論や手法および都市や地域との関係について学び、あわせて優れた事例にふれることで理解を深める。また、施設計画における今日の問題を捉えその課題や可能性について検討する。

建築空間史Ⅱ (History of Architecture II)

専門科目 建築・都市デザインコース科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：宮原・淵上
建築空間史Ⅰに続き、本講義では古代から近代までの我が国の建築を取り上げる。長い間の営為を歴史的に検証することは、現在の位置を把握し、これからの創造行為を支えていく基礎となる。当時の文化的、社会的状況を踏まえ、技術・生産面も含めて歴史的視点から分析し、その空間の特質について講義する。

建築環境工学Ⅱ (Architectural Environmental Engineering Ⅱ)

専門科目 建築・都市デザインコース科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：小島昌一
効率の良い冷暖房設備、衛生的な給排水設備等の建築設備を導入することは、住宅の居住者やオフィスの在室者にとって快適な空間を維持するために極めて重要である。この講義は空調設備を中心に、給排水衛生設備、建築電気設備等の建築設備設計の実務に関する基礎的事項を習得することを目的とする。

建築環境工学演習Ⅰ (Exercise of Environment Engineering of Architecture Ⅰ)

専門科目 建築・都市デザインコース科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：中大窪千晶
本演習では、建築における熱・空気環境、光環境、音環境についての演習問題を解き、講義科目「建築環境工学Ⅰ」で習得した基礎的知識に関する理解を深める。また、実際の建築における室内環境の問題や改善策等の事例も紹介する。演習は計算問題を主として行う。

鉄筋コンクリート構造設計 (Design of Reinforced Concrete Structures)

専門科目 建築・都市デザインコース科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：伊藤幸広
鉄筋コンクリート構造で学習した内容(作用断面力に対する部材応答の算定法)をベースに、鉄筋コンクリート建築物の各構造部材の設計の流れと、部材毎の具体的設計手順を学習する。想定する建築物は最も小規模なもの(階数 ≥ 2 で、延べ面積 $\geq 200\text{m}^2$ 、高さ $\leq 31\text{m}$)とし、 $31\text{m} < \text{高さ} \leq 60\text{m}$ の建築物で大地震に対する検証が必要となる保有水平耐力については基本知識を解説するに留める。また、建築基準法施行令(第82条6号)に準じた限界耐力計算法については触れない。

都市交通計画 (Urban Transportation Engineering)

専門科目 コース共通科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：清田勝(非常勤講師)
現在の交通政策の問題点を明らかにするとともに、今後進めるべき持続可能な交通政策について概説する。また、都市の交通システムをどのように整備し、維持・管理すれば交通の効率性や信頼性、安全性、快適性を向上させることができるかを検討するための考え方および手法について講義する。

インターンシップ (Internship)

専門科目 コース共通科目 (選択 第2群 2単位) 担当教員：学科主任
夏季休業期間を利用して、企業や官公庁において就業体験することにより、実務におけるプロジェクトの計画・運用の実際を知り、また、現在の大学での講義、演習で学習している事項がどのように実務の現場で生かされているのかを体感することにより、学習意欲の向上を図るとともに、就職活動へのモチベーションを高めることをひとつの目標とする。

■ 3年後学期の授業科目

都市工学ユニット演習(地盤工学) (Unit Exercise for Architecture & Civil Engineering -Geotechnical Engineering-)

専門科目 (選択 第1群 4単位) 担当教員：坂井・根上・末次
土構造物の設計演習として、土圧・圧密沈下・斜面安定・支持力等の問題を取り上げ、擁壁の設計、軟弱地盤上における盛土の沈下・安定計算、基礎地盤の支持力計算について、具体的な設計事例を対象に設計演習を行う。

都市工学ユニット演習(水環境工学) (Unit Exercise for Architecture & Civil Engineering -Water Environmental Engineering-)

専門科目 (選択 第1群 4単位) 担当教員：ナルモン・山西・大串・押川・三島悠
水環境工学に必要な知識及び分析能力を身につける為のプロジェクト演習である。フィールド調査、実験、データ分析などを行うことにより、河川流域における治水・利水に関する技術を学び、流域全体の水環境・生態系に関わる物質輸送・変換現象について理解する。

都市工学ユニット演習（構造工学）（Unit Exercise for Architecture & Civil Engineering -Structural Engineering-）

専門科目（選択 第1群 4単位）

担当教員：帯屋・井嶋・伊藤・三田

いくつかのテーマを設定し、これらに関する講義、演習、実験を学生自らが主体的に実施することにより、現代の構造技術者にとって、必須かつ重要な構造力学、コンクリート構造工学に関連する知識を総合的に理解し、運用する能力を身につける。

都市工学ユニット演習（建築都市デザイン）（Unit Exercise for Architecture & Civil Engineering -Architecture and Urban Design-）

専門科目（選択 第1群 4単位）

担当教員：三島伸雄・中大窪千晶

建築都市空間の企画・計画・設計に関する応用教育である。第1課題では設定された対象地区の空間についてフィールド調査を行い、地区空間の課題や特質を把握する。建築都市空間整備に関わる企画立案の訓練でもある。第2課題では第1課題で把握した課題や特質に基づいて、対象地区内の特定施設に関わる計画・設計を行う。

流域水工学（River Engineering）

専門科目 都市環境基盤コース科目（選択 第2群 2単位）

担当教員：大串浩一郎

陸域での降雨は、地表面流出や地下浸透を通して河川へ流出し、海へ至る。まず、洪水や段波など非定常流の特性や解析法などについて学ぶ。次いで、流域や河道の形態的な特性、雨量の統計的処理法、河川流出量の推定法について学ぶ。さらに、河川計画、河川調査、河川構造物、水防工法など河川の管理や治水に関する基本的な考え方や工法について学ぶ。

都市・地域環境計画（Urban and Regional Environment Planning）

専門科目 コース共通科目（選択 第2群 2単位）

担当教員：李海峰

生活・生産活動の場を安全かつ快適な環境として創造するため、都市・地域環境の保全と構築のための計画理論や技術について講義する。持続可能な発展にむけて、都市・地域の開発が資源や地域環境、地球環境へ与えるインパクトをできるだけ小さくするような計画技術やシステムを紹介する。

地震工学（Earthquake Engineering）

専門科目 コース共通科目（選択 第2群 2単位）

担当教員：井嶋克志

土木・建築構造物の耐震設計の基本的事項について授業を行う。まず、地震の発生頻度や規模などを説明し、地震による土木・建築構造物の地震被害、耐震設計の基本、地震による外力と構造物の振動、破壊現象を考慮した耐震設計の考え方、免震・制震などについて授業を行う。

建設施工・維持管理工学（Construction Work Control and Maintenance）

専門科目 コース共通科目（選択 第2群 2単位）

担当教員：伊藤幸広

適切な施工とその後の維持管理によって構造物は安全で十分な耐久性を持つ。建築・土木構造物（住宅、コンクリート橋梁、道路などを例に上げ）の施工法の基礎から施工計画や施工管理方法、さらに維持管理の考え方から各種維持管理技術について学ぶ。

建築法制度とデザイン（Building Law and Design）

専門科目 建築・都市デザインコース科目（選択 第2群 2単位）

担当教員：三島伸雄

建築関連法制度は建築や都市空間をつくりあげていくための実質的な仕組みである。それらは良好な建築都市空間の実現のために国民として最低限守らなければならない基準であるが、おのずと限界もある。ここではそうした建築関連法制度の仕組みや基準を理解するとともに、建築・都市デザインにおける課題や可能性について考える。

建築環境工学演習Ⅱ (Exercise of Environment Engineering of Architectural Ⅱ)

専門科目 建築・都市デザインコース科目 (選択 第2群 2単位)

担当教員：小島昌一

本演習では、建築における熱・空気環境についての知識を深めるとともに、建築設備設計の実務に関する基礎的事項を習得する。建築環境工学Ⅱの学修を通して建築設備に関する基礎知識を有することを前提に事務所ビル等の実際の建物を想定し、熱負荷計算および空調設備の設計演習を行う。また、建築を取り巻くエネルギー事情や、省エネルギーシステムについても理解する。

廃棄物資源循環工学 (Material Cycles and Waste Management)

専門科目 都市環境基盤コース科目 (選択 第2群 2単位)

担当教員：島岡隆行 (非常勤講師)

地球温暖化から始めて、現在最も問題の緊急性のある廃棄物問題を中心に講義する。廃棄物問題の歴史から始まり、廃棄物の現状と将来の技術的、社会的問題を論ずる。将来必ず到来するであろう資源問題の環境問題を踏まえ、循環型社会の創生のための手法を論ずる。

■ 4年前学期の授業科目

建築デザイン手法 (Design and Analysis)

専門科目 建築・都市デザインコース科目 (選択 第2群 2単位)

担当教員：平瀬・三島伸・後藤

デザインの手法には色濃く個性を反映するものもあれば、汎用的な共通する部分もある。ここではいくつかの作品事例を検証し、そこで用いられている手法を抽出、分析して、デザイン能力の向上に役立てる。一部演習形式も導入されよう。

■ 4年通年の授業科目

卒業研究 (Graduation Studies)

専門科目 (必修 12単位)

担当教員：全教員

専門分野の中でテーマを設定し、独自の視点から研究を遂行する。

表 2-2 都市工学科専門教育科目一覧 (平成 30(2018)年度入学者)

区分	授業科目	単位数		授業時間数								備考			
		必修	選択	1年		2年		3年		4年			計		
				前	後	前	後	前	後	前	後				
専門基礎科目	必修科目	微分積分演習Ⅰ	2		4							4			
		線形代数演習	2		4							4			
		力学演習	2		4							4			
		工学基礎演習	1		2							2			
		微分積分演習Ⅱ	2		4							4			
		都市工学概論	2		2							2			
		専門基礎英語Ⅰ	1		2							2			
		図学	2		2							2			
		専門基礎英語Ⅱ	1				2						2		
専門科目	必修科目	卒業研究	12							8	16	24			
		構造力学演習Ⅰ	2		4							4			
		建設材料学	2		2							2			
		土質力学	2			2						2			
		水理学	2			2						2			
		現代建築概論	2			2						2			
		アーバンデザイン	2			2						2			
		建築環境デザイン学	2		2							2			
	選択科目	第1群	都市工学ユニット演習 (地盤工学)		4						4		4		
			都市工学ユニット演習 (水環境工学)		4						4		4		
			都市工学ユニット演習 (構造工学)		4						4		4		
			都市工学ユニット演習 (建築都市デザイン)		4						4		4		
			都市工学ユニット特別演習											具体的科目名と単位数は別途指示	
		第2群 コース共通	測量学		2	2								2	
			測量学実習		1	3								3	集中
			統計数理		2	2								2	
			工業数学		2		2							2	
			基礎設計製図演習		2		4							4	
			計画システム分析		2		2							2	
			構造力学演習Ⅱ		2		4							4	
			技術者倫理		1		2							2	
			構造解析学		2			2						2	
			都市解析演習		2			2						2	
			都市計画		2			2						2	
			鉄骨構造学		2				2					2	
			構造・材料実験演習		2				4					4	
			都市防災工学		2				2					2	
都市交通計画		2				2					2				
インターンシップ		2				2					2	集中			
都市・地域環境計画		2						2			2				
地震工学		2						2			2				
建設施工・維持管理工学		2						2			2				
コース共通特別講義												具体的科目名と単位数は別途指示			

第3部 カリキュラムと学習指針

(平成 25(2013)年度～平成 27(2015)年度入学生)

(平成 24(2012)年度以前入学生)

1. 平成 25(2013)年度～平成 27(2015)年度入学生

■修得すべき授業科目と履修概要

平成 25(2013)年度～平成 27(2015)年度に都市工学科に入学した諸君は、以下に設定された授業科目の中から卒業に必要な単位を修得しなければなりません。授業科目は、教養教育科目、専門教育科目の2つに大別されます。

表 3-1 都市工学科の卒業要件単位（平成 25 年度～平成 27 年度入学生）

区 分		修得すべき単位の概要	単位		
教養教育科目	大学入門科目Ⅰ・Ⅱ		4 単位	33	
	基本教養科目		8 単位		
	インターフェイス科目		8 単位		
	共通基礎科目	外国語科目	英語 : 4 単位 初修外国語 : 2 単位 (ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語の中から1つを選択)		33
		健康・スポーツ科目	講義または演習 : 2 単位・実習 : 2 単位		
情報リテラシー科目		講義 : 2 単位・演習 : 1 単位			
専門教育科目	専門基礎科目(必修科目)		15 単位	124	
	専門科目(必修科目)		26 単位(卒業研究 12 単位含む)		
	専門科目(選択科目 第1群)		4 単位		
	専門科目(選択科目 第2群)	都市環境基盤コース	42 単位以上 都市環境基盤コース科目及びコース共通科目の中から、34 単位以上を含んでいること		91
		建築・都市デザインコース	42 単位以上 建築・都市デザインコース科目及びコース共通科目の中から、34 単位以上を含んでいること		
	専門周辺科目		4 単位以上		

卒業するためには、4 年間に 124 単位以上を修得しなければなりません。

■2 年次進級の要件

第 2 部「カリキュラムと学習指針（平成 28(2016)年度以降入学生）」や入学時の「理工学部で何を学ぶか」及び「学科・専攻の案内と学習の手引き」を参照してください。

■卒業研究着手資格判定・研究室配属

第 2 部「カリキュラムと学習指針（平成 28(2016)年度以降入学生）」や入学時の「理工学部で何を学ぶか」及び「学科・専攻の案内と学習の手引き」を参照してください。

2. 平成 24(2012)年度以前入学生

■修得すべき授業科目と履修概要

平成 24(2012)年度以前に都市工学科に入学した諸君は、設定された授業科目の中から卒業に必要な単位を修得しなければなりません。授業科目は、教養教育科目、専門教育科目の2つに大別されます。みなさんが4年間に履修しなければならない授業科目は、次のとおりです。

表 3-2 都市工学科の卒業要件単位 (平成 24(2012)年度以前入学生)

区 分		修得すべき単位の概要	単位	
教養教育科目	大学入門科目	2 単位	35	
	主題科目	登録した 1 主題分野から 8 単位以上を含み、合計 20 単位以上		
	共通基礎教育科目	外国語科目		英語 : 4 単位 初修外国語 : 2 単位 (ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語の中から 1 つを選択)
		健康・スポーツ科目		講義または演習 : 2 単位・実習 : 2 単位
	情報処理科目	講義 : 2 単位・演習 : 1 単位		
専門教育科目	専門基礎科目 (必修)	23 単位	124	
	専門基礎科目 (選択)	10 単位以上 (7 科目 14 単位より選択)		
	専門科目 (必修)	8 単位 (卒業研究 : 4 年次)		
	専門科目 (選択)	都市環境基盤コース		44 単位以上 都市環境基盤コース科目及びコース共通科目の中から、34 単位以上を含んでいること
		建築・都市デザインコース		44 単位以上 建築・都市デザインコース科目及びコース共通科目の中から、34 単位以上を含んでいること
専門周辺科目	4 単位以上			
			89	

卒業するためには、4年間に 124 単位以上を修得しなければなりません。

以下では要点のみ記述します。詳しくは、入学時の「理工学部で何を学ぶか」及び「学科・専攻の案内と学習の手引き」を参照してください。

■コース進学要件

2 年次後学期からは、専門科目 (選択) の科目 (コース科目) の履修が始まりますが、コースへの進学の要件は、「2 年次前学期終了時まで

に開講される専門基礎科目及び専門科目のうち、8 科目以上を修得していること」です。「8 単位以上」ではなく、「8 科目以上」ですので注意してください。この要件を満たさない場合は、8 年次後学期以降に開講される専門科目 (コミュニケーション英語、技術英語を除く) を履修することが出来ません (要するに「留年」となります)。

■卒業研究着手資格判定

(1) 前学期終了時の要件

3 年次前学期終了時点で卒業研究着手資格を得るための必要単位は、次の通りです。

3 年次前学期終了時まで (3 年を超えて在学し「卒業研究」を未履修の者にあっては、各年の前学期終了時まで) に、次の各号を満たしていること。

- (1) 主題科目の修得単位が 14 単位以上であること。
- (2) 大学入門科目及び共通基礎教育科目の卒業要件単位を修得していること。
- (3) コミュニケーション英語、技術英語の単位を除く、専門基礎科目の必修科目の単位を全て修得していること。

- (4) 専門周辺科目の修得単位が 2 単位以上であること。
- (5) 専門基礎科目の選択科目の修得単位が 10 単位以上であること。
- (6) 専門科目の修得単位が 24 単位以上であること。

(2) 後学期終了時の要件

3 年次後学期終了時まで（3 年を超えて在学し「卒業研究」を未履修の者にあつては、各年の後学期終了時まで）に、3 年次前学期終了時点での卒業研究着手資格要件と同じ条件を満たし、かつ理工学部規則別表の卒業要件単位を 100 単位以上修得していること。

■研究室配属

卒業研究着手資格判定で、「合格」と判定されれば、3 年次後学期終了時にみなさんが卒業研究を行なう研究室を決めます。

ただ、ある研究室に沢山の学生が集中するのは好ましくないため、各研究室の学生数がほぼ等しくなるように学生間で調整して決定しています（学生同士で話し合いがつかない場合には GPA の高い学生が優先されることがあります）。

なお、研究室配属は、新カリキュラムの学生とともに後学期終了時（3 月予定）にのみ実施することとします。

■各授業科目の概要

授業科目の詳細なシラバスや科目概要については、LiveCampus システム上のオンラインシラバス、および本冊子第 2 部「カリキュラムと学習指針（平成 28(2016)年度以降入学生）」の各授業科目概要を参照してください。

なお、一部の科目は、開講科目（旧カリ）を新カリキュラムの科目に読み替えていく必要がありますので、次節の読み替え措置を十分に理解するようにしてください。

また、平成 21 年度以降に入学した学生は、卒業後に建築士を受験する場合、国土交通省が指定した科目（以下、指定科目）を習得していなければ、これまで建築系の大学を卒業しただけで与えられていた建築士の受験要件が得られなくなります。詳しくは、資格に関する項を参照して下さい。

■平成 24(2012)年度以前入学生の専門教育科目の読み替え措置について

都市工学科では、平成 25(2013)年度からカリキュラムが変更されています。以下に、読み替えの一覧表を示しますので、再履修等で新カリキュラムを受講する必要がある場合には、一覧表の読み替え科目を確認した上で受講して下さい。

表 3-3 平成 24 (2012) 年度以前入学生の読み替え表

H21～H24 年度の科目(旧カリ)		H25(2013)年度以降の科目(新カリ)
1年次の科目		
専門基礎数学演習Ⅰ	必修	微分積分演習Ⅰ
専門基礎数学演習Ⅱ	必修	線形代数演習
専門基礎数学演習Ⅲ	必修	微分積分演習Ⅱ
専門基礎力学演習	必修	力学演習
構造力学基礎	必修	構造力学演習Ⅰ
構造力学基礎演習	必修	読み替えなし
都市工学概論	必修	都市工学概論
都市工学基礎演習	必修	図学
測量学Ⅰ	必修	測量学
測量学実習Ⅰ	必修	測量学実習
測量学Ⅱ	選択	読み替えなし
測量学実習Ⅱ	選択	読み替えなし
統計数理	選択	統計数理
2年次の科目		
基礎設計製図演習	必修	基礎設計製図演習
建設構造力学演習	選択	構造力学演習Ⅱ
現代建築概論	選択	現代建築概論
土質力学	選択	土質力学
水理学	選択	水理学
都市構成論	選択	都市計画
建築環境デザイン学	選択	建築環境デザイン学
建設材料学	選択	建設材料学
工業数学	選択	工業数学
システム分析	選択	計画システム分析
コミュニケーション英語	必修	専門基礎英語Ⅰ
構造力学実験演習	選択	構造解析学
都市・地域計画	選択	読み替えなし
都市交通システム学	選択	都市交通計画
地盤工学実験演習	選択	地盤工学実験演習
水工水理学	選択	水工水理学
鉄筋コンクリート工学	選択	鉄筋コンクリート工学
水環境システム工学	選択	水環境システム工学
居住環境デザイン演習	選択	読み替えなし(建築都市デザイン演習Ⅰ【3単位】と同時に実施)
居住環境計画	選択	居住環境計画
建築空間史Ⅰ	選択	建築空間史Ⅰ
建築環境工学Ⅰ	選択	建築環境工学Ⅰ
鉄筋コンクリート構造	選択	鉄筋コンクリート構造
3年次の科目		
技術英語	必修	専門基礎英語Ⅱ
都市防災工学	選択	都市防災工学
鉄骨構造学	選択	鉄骨構造学

H21～H24 年度の科目(旧カリ)		H25(2013)年度以降の科目(新カリ)
建設材料実験演習	選択	構造・材料実験演習
インターンシップ	選択	インターンシップ
地震工学	選択	地震工学
建設施工・維持管理工学	選択	建設施工・維持管理工学
都市・地域環境計画	選択	都市・地域環境計画
地区環境計画演習	選択	都市解析演習
コース共通特別演習	選択	コース共通特別講義
地盤工学	選択	地盤工学
地盤環境学	選択	地盤環境学
水工学実験演習	選択	水工学実験演習
環境衛生工学	選択	環境衛生工学
環境生態工学	選択	環境生態工学
コンクリート構造工学	選択	コンクリート構造工学
基礎地盤設計演習	選択	都市工学ユニット演習 (都市環境基盤) ／H29～ 都市工学ユニット演習 (地盤工学)
流域水工学	選択	流域水工学
廃棄物処理	選択	廃棄物処理 /H29～ 廃棄物資源循環工学
都市環境基盤特別講義	選択	都市環境基盤特別講義
建築都市デザイン演習Ⅰ	選択	読み替えなし (建築都市デザイン演習Ⅱ【3単位】 と同時に実施)
建築都市デザイン演習Ⅱ	選択	都市工学ユニット演習 (建築都市デザイン)
地域施設計画	選択	地域施設計画
建築法制度とデザイン	選択	建築法制度とデザイン
建築環境工学Ⅱ	選択	建築環境工学Ⅱ
建築空間史Ⅱ	選択	建築空間史Ⅱ
鉄筋コンクリート構造設計	選択	鉄筋コンクリート構造設計
アーバンデザイン	選択	アーバンデザイン
建築環境工学演習Ⅰ	選択	建築環境工学演習Ⅰ
建築環境工学演習Ⅱ	選択	建築環境工学演習Ⅱ
4年次の科目		
技術者倫理	選択	コース共通特別講義 (技術者倫理)
建築デザイン手法	選択	建築デザイン手法
建築・都市デザイン特別講義	選択	建築・都市デザイン特別講義

第4部 大学院博士前期課程の カリキュラムと学習指針

1. 大学院の教育目標と学生募集について

学部学生が更に勉学する場として、佐賀大学にはそれぞれ標準修業年限2年および3年の博士前期課程と博士後期課程が設けられています。工学系研究科都市工学専攻の教育課程は、

- (A) 都市工学を専攻し、将来、専門技術者を目指す学生に共通して有益な、高いレベルの素養を身につけさせる。
- (B) 社会基盤整備のための専門技術者として必要な、現象の正確な把握と的確な工学的判断ができるための高度な知識を修得させ、その運用能力を育成する。
- (C) 建築およびまちづくりのための専門技術者・デザイナーとして必要な、独創的かつ合理的な発想力と表現力を鍛錬し、それを支える高度な知識を身につけさせる。

という教育目標を掲げています。

■博士前期課程の学生募集概要

都市工学専攻の入学選抜は、推薦選抜試験と一般選抜試験の2種類で行います。一般選抜試験は英語（TOEICのスコア）・数学（微積分・微分方程式・線形代数）ならびに専門科目（構造力学・水理学・地盤工学・環境衛生工学・建築環境工学・都市計画学・建築理論（計画・歴史）・建築設計（実技）の中から4科目選択）についての筆記試験・面接・調査書・健康診断を基にした総合的判断で行われます。例年、9月のはじめ頃に行われます。合格者数が応募定員に満たない場合、翌年の2月に2次募集が実施されることもあります。

2. 博士前期課程・都市工学専攻の概要

博士前期課程では、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職務などに必要な能力を養うことを目的としています。各教員からの講義も行われますが、指導教員のもとで各研究テーマに基づいた自主的な学習・研究活動が基本です。学部時代の学科にとらわれず、自分が研究したいテーマの指導教員のいる専攻を選ぶことができます。修了し学位論文審査に合格すると修士（工学）の学位が与えられます。

■博士前期課程の修了要件

専門基礎教育科目（文献調査研究・都市工学コロキウム）の4単位（必修）、専門教育科目から22単位以上、大学院教養教育プログラムから4単位以上の合計30単位以上を修得し、修士論文あるいは特定の課題の研究成果の審査に合格すると修士（工学）の学位が受けられます。

3. 博士前期課程・都市工学専攻の講義科目概要

以下に、博士前期課程・都市工学専攻で開講される授業科目の概要を示します。詳細なシラバスについては、LiveCampus システム上のオンラインシラバスを参照してください。

■基礎教育科目（必修）

文献調査研究 （2単位・半期・必修） 担当教員：各指導教員
博士前期課程入学後に、指導教員と相談・協議を経て研究課題が設定される。修士論文で取り扱う研究課題を計画的かつ戦略的に推進して行くためには、着手前における研究計画の立案が極めて重要となってくる。本講義は、学生の自立的な研究推進能力を養成するためのトレーニング機会を与えるものと位置づけている。本講義は、2年次前学期に1週間の集中講義形式で開講するが、1年次の1年間の研究活動を通じた調査、研究活動のPDCAサイクルによるチェック履歴が重要な意味を持つこととなる。したがって、受講のための事前準備は入学直後から始まることとなる。1年間の日常の教育指導は指導教員が行う。

都市工学コロキウム （2単位・半期・必修） 担当教員：専攻長
質の高い研究を継続的に実行するためには、学内外に研究経過や結果の一部を公表し、研究の方向性、当該分野における位置づけ、などに関する評価を不断に受けることが重要である。また、学会発表や論文審査会において、研究の有用性や意義について議論をし理解を得るためには、プレゼンテーションやディベートの技術だけでなく、当該研究分野とその周辺領域に関する深い知識や論理的思考能力を修得しておく必要がある。この講義では、各学生の研究課題周辺の分野から選定したトピックに関して、調査を行い、これらの成果をポスターセッション形式のコロキウムで発表することを義務付けられる。コロキウムでは指導教員だけでなく多くの異分野の教員から評価を受けることによって、研究活動の方向性がより明確になり、新しい研究シーズの獲得に繋がることも期待される。

■専門教育科目（選択）

計算力学特論 （2単位・半期・選択・学部開放科目） 担当教員：帯屋洋之
変位法は、コンピュータによって構造物の設計計算を行う際に非常に有用であるだけでなく、有限要素法による汎用コードで用いられている理論等に比しても、その理論構成が非常に単純で明解な、たわみ角法の拡張理論である。本講義では、平面骨組構造への変位法の適用と、その応用としての幾何学的非線形問題への拡張について述べるほか、実際のコンピュータ端末を用いてプログラムを作成することにより、アルゴリズムの流れと求解に至るまでの力学的な概念を習得することを目的とする。

環境地盤工学特論 （2単位・半期・選択・学部開放科目） 担当教員：柴錦春
地盤汚染の防止と汚染した地盤の浄化等は地球環境問題における重要な課題の一つである。地盤環境問題を対処するために、技術者は、一般の地質工学と土木工学の知識だけでなく、水理地質、地質化学、生物学の知識を勉強しなければならない。この授業の目的は環境地盤工学の基礎知識、廃棄物処分場の設計法、汚染された地盤の浄化技術及び現場モニタリング技術を教えることである。全体は以下の五つの部分で構成される。

- (1) 地盤の汚染問題
- (2) 環境地盤工学の一般原理
- (3) 新しい廃棄物処分場の設計と施工
- (4) 汚染地盤の処理と浄化技術
- (5) 観測法と観測技術

水環境情報学特論 (2単位・半期・選択・学部開放科目) 担当教員：大串浩一郎
流域や沿岸域における水環境の情報を効率良く取得し、活用することによって、我々の身のまわりの水環境を的確に把握し、防災・水利用ならびに自然と共生した環境の創造に繋げることが可能である。本講義では、水環境に関連するリモートセンシング・GISの応用技術ならびに数値シミュレーションによる現象の理解と活用方法について学ぶ。

都市デザイン論 (2単位・半期・選択・学部開放科目) 担当教員：三島伸雄
西欧や日本の都市デザインの具体的事例を、特に地域特性ならびにそれらを考慮した整備手法や法制度などの側面を検証し、都市デザインの理念及びそれを実現する技術や手段などについて理解を深める。また、各国事例を比較することによって、それらの特徴や問題点などを浮かび上がらせ、これらの都市デザインのあり方について考察する。

都市構成システム論 (2単位・半期・選択・学部開放科目) 担当教員：猪八重拓郎
空間相互作用型の都市モデルを通して、都市の内部構造の成り立ちや都市施設の立地による移動等の都市活動への影響を明らかにし、システム論的な観点から都市構成の問題やその構築の方向性について講義する。さらに具体論として、都市の構成や周辺環境に大きな影響を与えると考えられる「開発」による影響を分析する手法とその管理のあり方について検討する。

建築環境工学特論 (2単位・半期・選択・学部開放科目) 担当教員：小島昌一
建築環境工学とは、採光、通風・換気、断熱、音響、あるいは冷暖房設備などの機械力により、快適な室内空間を実現する技術に関する学問である。本講義では、建築空間における熱・空気の制御という観点から、居住空間のあり方ならびに環境物理要因の最適化について講義する。また、建築環境分野における省エネルギー化についても、エネルギー管理の観点から論じる。

地震工学特論 (2単位・半期・選択) 担当教員：井嶋克志
建設関連の技術者が持つべき耐震設計に関する知識と将来一般的となると思われる構造物の非弾性現象を伴う動的解析手法について先端的レベルで授業を行う。

構造工学特論 (2単位・半期・選択) 担当教員：井嶋克志
(1) 変位法による線形解析の復習と強制変位問題および熱応力問題への対応
(2) 接線剛性法を用いた幾何学的非線形解析 (3) RC構造物の材料非線形解析 (4) これらを総括した動的解析。本講義はこれらの項目を主な内容とする。技術者として構造解析の汎用ソフトをブラックボックス化しない目的のもとに、橋梁を対象に実務における耐震安定性の照査を中心とした講義である。

応用力学特論 (2単位・半期・選択) 担当教員：帯屋洋之
構造物のカタチと力学について論じる。力の釣合式をもとにした幾何学的非線形理論を用いて、吊り構造、曲面構造、立体骨組構造、膜構造、テンセグリティ構造などの形態解析の手法を学ぶ。各種構造系に適合する形態解析プログラムを構築できる能力を修得することを到達目標とする。受講に際しては、既習の構造系の科目について習熟し、相当な知識と運用能力を有していることが望ましい。

建設材料学特論 (2単位・半期・選択) 担当教員：伊藤幸広
建設材料、構造物および施工方法など建設分野における過去の重要な発明、技術開発について、従来技術からの改良点、開発に至る経緯などを踏まえて解説する。なお、この解説には特許公報を用いるため、我が国の知的財産権制度のあらましについても触れる。さらに、チェックリスト法、ブレインストーミング法などの発想法および一連の技術開発システムについて講義し、実際に学生にテーマを与え上記の方法を実践、体得させ発想力を養う。

維持管理工学特論 (2単位・半期・選択)

担当教員：伊藤幸広

適切な施工とその後の維持管理によって構造物は安全で十分な耐久性を持つ。建築・土木構造物 (RC 建築物、橋梁、道路などを例に上げ) の維持管理の考え方から各種維持管理技術について学ぶ。

防災地盤工学特論 (2単位・半期・選択)

担当教員：末次大輔

本講義では、降雨や地震動で発生する斜面災害・地盤沈下や液状化などの地盤災害について、災害事例と対策事例を紹介しながら災害発生のメカニズムおよび対策技術の原理について講義する。

低平地地圏環境学特論 (2単位・半期・選択)

担当教員：日野剛徳

第1章 概説、第2章 低平地地盤の生成と特徴、第3章 低平地地盤の開発と保全、第4章 低平地地圏環境の特性、第5章 地圏環境・土壌の汚染と防止対策、第6章 汚染地盤・土壌の浄化技術、第7章 埋立最終処分場の技術と課題、第8章 地球環境問題と低平地の地圏環境

地盤動力学特論 (2単位・半期・選択)

担当教員：坂井晃

土の力学特性や地盤の変形に関する学部の講義では、主に静的挙動を対象にした内容が取り上げられているが、本講義は地震等を対象とした地盤の動的挙動に関する講義を行う。まず、土の基本的な動的性質 (特色、試験法、動的変形特性) について述べ、その後具体的な動的問題として知られている砂地盤の液状化の問題について解説する。また、講義の後半では、近年地盤の地震応答解析がよく実施されるようになってきていることから、地盤の動的解析法について、土の動的挙動のモデル化及び種々の動的解析手法を紹介する。

地盤工学特論 (2単位・半期・選択)

担当教員：末次大輔

本講義では次の3つの内容について説明する。(1) 土構造物等の地盤の設計に必要な土の強さと破壊について説明する。(2) 地盤を安定化させるために利用される地盤の改良技術について説明する。(3) 環境保全や資源の有効活用の観点から、現在積極的に利用されつつある建設発生土や産業副産物による人工材料について、それらの地盤工学的な特性や利用における課題等を説明する。なお、本講義では学部科目の「土質力学」ならびに「地盤工学」を履修していることが望ましい。

土質力学特論 (2単位・半期・選択)

担当教員：日野剛徳

土の力学を地盤工学上の境界値問題と解く手段とみなすならば、物理化学的性質は物性を記述するための基礎的知見である。これは、数理的な手法では説明しえない土の現象を物理化学的性質の解明によって記述しうるものが多く、有力な武器と見なすことができるであろう。本講義では、土の物理化学的性質の内容について集中的に説明する。

応用流体力学特論 (2単位・半期・選択)

担当教員：押川英夫

流体運動の基礎方程式であるナビエ・ストークスの運動方程式と乱流におけるレイノルズの運動方程式について、それらの差異を含めて学ぶとともに、海岸工学の基本となる微小振幅波理論について学ぶ。更に、水理学における代表的な不規則現象である乱流と水面波の統計的な特性について学ぶ。

水工学特論 (2単位・半期・選択)

担当教員：大串浩一郎

土木技術者が水理計算を行う際に必要な差分法に関する基礎的事項を講義する。まず、差分法の基礎について概説し、次に1次元開水路流れについてサンブナンの仮定に基づき、積分形式・微分形式の基礎式を導出する。さらに基礎式に対する種々の有限差分法を紹介し、また、計算法の数値安定性について議論する。最後に、河床変動や物質拡散シミュレーションのための数値計算法など応用的な事柄について講義する。

水環境システム工学特論（2単位・半期・選択）

担当教員：ナルモン

湖沼、河川などの水環境の基本現象（物質輸送・変換特性や生態系の基本原理）について概説する。経済活動に伴う水質汚濁と水質制御技術の変遷について説明する。総合水管理の現況と課題について概説し、水質管理や水量管理におけるシステム論の必要性について講義する。公共事業に関連する環境評価に関する先駆的な取り組み事例を水環境システムの観点から紹介する。

水環境管理工学特論（2単位・半期・選択）

担当教員：三島悠一郎

水環境や水資源の保全を管理（Management）という総合的視点から概説する。生産活動や経済活動等の人間活動に伴う水質汚濁を防止するための防止技術（Control）について概説する。湖沼、海域における富栄養化問題や地下水過剰揚水に伴う地下水汚濁問題など複雑化した水問題を解決するための総合水管理の必要性について説明する。

水処理工学特論（2単位・半期・選択）

担当教員：三島悠一郎

公共用水域や地下水の保全、水質汚濁の改善のための下 wastewater 処理、地下水浄化、水域の直接浄化について、対象水質と単位プロセス、各種水処理プロセスの原理とフロー、設計因子、運転操作条件などについて講義、演習を行い、水質制御の基本計画、水処理プロセスの基本設計が行える程度までの理解を図る。

環境輸送特論（2単位・半期・選択）

担当教員：山西博幸

本講義では、環境中における物質反応を伴う移動現象として、我々の生活圏である水域及び大気域での流体による物質輸送を取り扱う。この際、物質、運動量及びエネルギーの収支の概念から導かれる輸送現象モデルは工学的ツールとして重要である。ここでは、物理現象、化学現象、生物学的現象及び生態系を加味した輸送現象を体系的に構築するための基礎的事項を学ぶ。

低平地水圏環境学特論（2単位・半期・選択）

担当教員：山西博幸

社会生活の高度化とともに水域に対する関心は年々増加している。ここでは、低平地であるが故に生ずる水圏環境に関わる諸問題に着目しつつ、人間と環境、特に水質汚濁や土壌汚染に関わるテーマについて学習し、環境保全を含めた工法・手法について学ぶ。

国際都市・環境特別演習(都市・環境工学)（2単位・半期・選択）

担当教員：李海峰・猪八重拓郎

合意形成の困難さとそのシステム化の意義を疑似体験を通して修得することを目的としている。想定された「開発計画」について、開発チームはその開発による影響を様々な側面から評価し、「経済的評価」と「開発影響評価」のレポートを作成する。この開発計画には複数の対立意見があるものと仮定し、「模擬審査会」の場において、開発チームによるレポートの説明、対立グループとの討議、中立的なインスペクターによる総括というプロセスを体験する。

国際都市・環境特別演習(建築・都市デザイン)（2単位・半期・選択）

担当教員：三島伸雄・平瀬有人

学術交流協定校等との連携による国際ワークショップなどへの参加を通じて、海外の大学生等と建築都市デザインに関する国際的な技術交流を行い、そのスキルアップを図るとともに、英語コミュニケーション能力の向上を図る。

都市環境性能特論（2単位・半期・選択）

担当教員：李海峰

都市化に伴う環境に対する影響がますます顕著に現われてくるなか、都市環境の要素とその性能を体系的に理解し、持続可能な都市づくりの理念に対する認識を深めることを念頭に置き、都市・地域・住区などの空間スケールに分け、熱環境、大気環境、廃棄物、水環境、住環境、環境影響評価などに関する基礎知識、及び都市環境計画と評価方法について講義する。

建築・都市デザイン特別演習Ⅰ（2単位・半期・選択） 担当教員：三島伸雄
急速な現代社会の変化を前提に、それに対応する都市、建築の社会的整備、空間構成の方法を、フィールドワークを含む計画・設計演習として学ぶ。特に、建築的解決の可能性とその具体的提案を求める。

建築都市空間論（2単位・半期・選択） 担当教員：宮原真美子
西欧や日本の建築あるいは都市の空間構成について検討し、それらの基本的構造や性格を社会背景、技術等も参照しながら理解する。また、そうした空間的特質の現代的展開についても考察し、計画・設計手法の可能性を探る。

建築空間計画特論（2単位・半期・選択） 担当教員：三島伸雄
施主や地域の要求を踏まえ、その意向を建築空間の計画にいかに関与させるか、あるいは建築空間が位置するところの地域の特質をいかに取り込むか、そうした手法の基本と応用について講ずる。

建築・都市デザイン特別演習Ⅱ（2単位・半期・選択） 担当教員：平瀬有人
リアリティのある建築設計演習として、実際のプロポーザルやプロジェクトを題材とした設計課題に取り組み、設計図書の作成演習を行う。

住環境論（2単位・半期・選択） 担当教員：後藤隆太郎
人間の生活空間における住環境の意味と果たすべき役割を扱う。自然風土との調和、地域における文化や社会との対応を通じて理解を深めるとともに、人間が集住するための理論や実践、また、その今日的展開について考察する。

建築デザイン論（2単位・半期・選択） 担当教員：平瀬有人
建築デザインは本来、個別解であるが、一方、時代や社会に通底する共通性からも自由ではない。建築デザインの今日的な事例を取り上げ、その理論や手法等を分析し、創作への展開を論ずる。

建築環境設計特論（2単位・半期・選択） 担当教員：中大窪千晶
地球環境問題や都市部での環境問題、さらには居住環境について建築環境工学との関わりを中心に講義を行う。特に、環境問題に対する社会的な動きや技術的な工学的なアプローチに関して解説を行い、それを踏まえて今後の環境デザインについて議論し、考察を行う。

建築環境設計特別演習（2単位・半期・選択） 担当教員：小島昌一・中大窪千晶
近年の環境問題も視野に含めた環境工学からみた建築のあり方や、その工学的コントロールの手法の演習を行う。まず、建築設計における冷暖房のガイドラインを習得した後に、建築物の省エネルギー基準の年間熱負荷係数PALの計算方法を習得する。その後、都市・建築における環境に関する講義・演習を行う。また、実在する建物に用いられている環境工学の技術について文献調査を行い、「地球環境の保全」、「持続可能な社会」が求められる中での環境デザインについて討論する。

地域デザイン特別演習（2単位・半期・選択） 担当教員：後藤隆太郎・宮原真美子
特定の地域や地区を対象とし、その地域社会の諸問題を検討・抽出し、そこで活動する諸団体とも共同しつつ建築的解決を実地にて取り組む。つまり「地域デザイン」として、地域における不特定多数からの要求をくみとり、建築的設計提案の制作及び発表、さらには設計提案に関する地域の人々との議論など、これら一連の活動を通じて建築を学ぶ。

都市工学特別演習 (2単位・半期・選択)

担当教員：猪八重・井嶋・柴

都市基盤建設の分野を構成している個々の専門分野について、より深い知識の修得を求めると同時に、プロジェクト全体をマネージする能力を育成する。現場事例を用いて、都市計画・地盤工学・上下水道工学・構造工学に関する高等な専門知識の応用方法について、システマチックに演習を実施する。

建築特別インターンシップⅠ・Ⅱ (2単位・半期・選択・集中)

担当教員：平瀬・後藤・三島伸

表 4-1 博士前期課程 都市工学専攻の科目一覧

科目区分	科目名	単位	備考		
専門 科目	基礎教育科目	文献調査研究	2 必修		
		都市工学コロキウム	2 必修		
	専門教育科目	都市工学特別演習	2	22 単位以上選択必修 ただし、※を付した科目は、このうち 1 科目のみ修了要件に算入することができる。	
		地震工学特論	2		
		構造工学特論	2		
		計算力学特論	2		
		応用力学特論	2		
		建設材料学特論	2		
		維持管理工学特論	2		
		防災地盤工学特論	2		
		低平地地圏環境学特論	2		
		環境地盤工学特論	2		
		地盤動力学特論	2		
		地盤工学特論	2		
		土質力学特論	2		
		応用流体力学特論	2		
		水環境情報学特論	2		
		水工学特論	2		
		水環境システム工学特論	2		
		水環境管理工学特論	2		
		水処理工学特論	2		
		環境輸送特論	2		
		低平地水圏環境学特論	2		
		都市構成システム論	2		
		国際都市・環境特別演習(都市・環境工学)	2		国際パートナーシップ・集中 国際パートナーシップ・集中
		国際都市・環境特別演習(建築・都市デザイン)	2		
		都市環境性能特論	2		
		建築・都市デザイン特別演習 I	2		
		建築都市空間論	2		
		都市デザイン論	2		
		建築空間計画特論	2		
		建築・都市デザイン特別演習 II	2		
		住環境論	2		
		地域デザイン特別演習	2		
		建築環境工学特論	2		
		建築環境設計特別演習	2		
		建築デザイン論	2		
		建築環境設計特論	2		
		建築特別インターンシップ I	2		集中
		建築特別インターンシップ II	2		集中
	都市工学考究 I	1	具体的講義名と単位数は別途定める		
	都市工学考究 II	2	具体的講義名と単位数は別途定める		
	※数値計算法特論	4	集中		
	※産学連携特論	2			
	※ビジネスマネジメント特論	2	集中		
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	1	研究・職業倫理特論, 情報セキュリティ特論, データサイエンス特論を含めて 4 単位以上選択必修		
	情報セキュリティ特論	1			
	データサイエンス特論	1			
	学術英語特論	1			
	ダイバーシティ・人権教育特論	1			
	キャリアデザイン特論	1			
	多文化共生理解	1			

科目区分	授業科目	教員名	単位	博士前期課程開講学期			
				平成 30 年度		平成 31 年度	
				前期	後期	前期	後期
基礎教育科目	文献調査研究	指導教員	2	○		○	
	都市工学コロキウム	専攻長	2		集中		集中
専門科目	都市工学特別演習	猪八重 拓郎 井嶋 克志 柴 錦春	2	○		○	
	地震工学特論	井嶋 克志	2		○		
	*構造工学特論	井嶋 克志	2				○
	*計算力学特論	帯屋 洋之	2	○			
	応用力学特論	帯屋 洋之	2				
	*建設材料学特論	伊藤 幸広	2		○		
	維持管理工学特論	伊藤 幸広	2				○
	防災地盤工学特論	末次 大輔	2	○			
	低平地地圏環境学特論	日野 剛徳	2			○	
	*環境地盤工学特論	柴 錦春	2	○		○	
	*地盤動力学特論	坂井 晃	2	○		○	
	*地盤工学特論	末次 大輔	2				○
	*土質力学特論	日野 剛徳	2	○		○	
	応用流体力学特論	押川 英夫	2		○		○
	*水環境情報学特論	大串 浩一郎	2	○			
	水工学特論	大串 浩一郎	2			○	
	*水環境システム工学特論	ナルモン	2	○		○	
	水環境管理工学特論	三島 悠一郎	2	○		○	
	*水処理工学特論	三島 悠一郎	2		○		
	*環境輸送特論	山西 博幸	2			○	
	低平地水圏環境学特論	山西 博幸	2	○			
	*都市構成システム論	猪八重 拓郎	2		○		
	*国際都市・環境特別演習 (都市・環境工学)	李 海峰 猪八重 拓郎	2				
	*国際都市・環境特別演習 (建築・都市デザイン)	三島 伸雄 小島 昌一	2	集中		集中	
	*都市環境性能特論	李 海峰	2	○			
	*建築・都市デザイン特別演習 I	三島 伸雄	3	○		○	
	*建築都市空間論	宮原 真美子	2				○
	*都市デザイン論	三島 伸雄	2			○	
建築空間計画特論	三島 伸雄	2					
*建築・都市デザイン特別演習 II	平瀬 有人	3		○		○	
*住環境論	後藤 隆太郎	2	○				
*建築環境工学特論	小島 昌一	2			○		
建築デザイン論	平瀬 有人	2			○		

注) *の科目は、環境・エネルギー科学グローバル教育プログラムの学生が履修した場合は、全て英語で開講される。

科目区分	授業科目	教員名	単位	博士前期課程開講学期				
				平成 30 年度		平成 31 年度		
				前期	後期	前期	後期	
専門科目	専門教育科目	*建築環境設計特論	中大窪 千晶	2	○			
		建築環境設計特別演習	小島 昌一 中大窪 千晶	2		○		○
		*地域デザイン特別演習	後藤 隆太郎 宮原 真美子	2		○		○
		建築特別インターンシップⅠ	平瀬 有人 後藤・三島 (伸)	2	集中		集中	
		建築特別インターンシップⅡ	平瀬 有人 後藤・三島 (伸)	2	集中		集中	
		都市工学考究Ⅰ	未定	1				
		都市工学考究Ⅱ	未定	2				
		数値計算法特論	磯・西村・藤原	4	集中			
		産学連携特論	佐藤 三郎	2	○			
		ビジネスマネジメント特論	横瀬 勉	2		集中		
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	根上 武仁	1	○		○		
	情報セキュリティ特論	只木・堀・大谷・ 廣友	1	○		○		
	データサイエンス特論	皆本・堀・山下・竹 村・田中・稲葉・北 垣・半田・廣友・木 村・日比野・中川・ 上原・川口・富永・ 西郡	1		○		○	
	学術英語特論	Petrus Roux	1	○	○	○	○	
	ダイバーシティ・人権教育特論	松下・荒木	1		○		○	
	キャリアデザイン特論	光富勝	1		○		○	
	多文化共生理解	中尾・張・山	1	○		○		

注) *の科目は、環境・エネルギー科学グローバル教育プログラムの学生が履修した場合は、全て英語で開講される。

4. 博士前期課程の中間発表会（都市工学コロキウム）について

■中間発表の目的

博士前期課程1年次の後学期には、ポスターセッション方式の修士論文中間発表会が行われます。「都市工学コロキウム」（必修2単位）の一部として行われるものであり、この単位を履修している学生は必ず参加しなければなりません。この中間発表は、修士2年最後にまとめる修士論文をより完成度の高いものにするために行うものです。これまで行ってきた研究の進捗状況をチェックし、問題点があれば修正し、約1年後の修士論文発表の日までさらに指導教官とも議論を密に重ね、立派な論文を仕上げてくださいと思います。

■ポスターセッションによる発表

(1) ポスターセッション

- ・パネル等の会場設営は、教職員と大学院進学予定の4年生で準備します。
- ・開始時刻までに、ポスター掲示等を完了すること。
- ・ポスターセッション（90分間）で、指導教員以外の教員等との質疑応答、今後に向けた有効な議論を行うこと。
- ・質問や議論の内容を記録すること。

(2) ポスター

- a. 形状は任意、パネル（縦120cm×横90cm）内に納めること。
 - b. 研究テーマ・内容について、下記を含み、図、写真、グラフなど用いて工夫すること。
 - i. 研究に至った経緯・背景
 - ・従来の研究経過や研究成果に関する調査
 - ・着想に至った経緯、研究の背景 など
 - ii. 研究目的
 - ・明らかにしようとする事
 - ・研究の範囲 など
 - iii. 研究方法や今後の計画
 - ・具体的な研究計画とその方法 など
 - c. ポスター上部に、研究題目、学籍番号、氏名を明記（高さ2.5cm）、文字サイズは1.5mの距離から読める程度の大きさとする事。
 - d. 内容を補足する、基礎資料ファイル、既発表論文、実験資材などの持ち込み、パソコンなどの視聴覚機器使用も適宜可能とします。
- (3) 90分の公式発表会の後に簡単な懇親会を開催いたします。発表者は、この非公式な場を利用してさらに有益な意見交換が可能となりますので、是非参加して下さい。
- (4) 「都市工学コロキウム」（必修、2単位）は、上記の「ポスターセッション」への参加および別途指示する「作業報告書」及び「中間発表まとめ」の提出により評価します。
- (5) やむを得ない理由が認められる場合の代理参加等について、必ず事前に指導教員および実施担当教員（教務委員）に申し出て、指示を得ること。

■中間発表に向けた準備

研究室においては学会などの専門家レベルの討議に耐えられるように、かつ後輩等からの基礎的な質問にも答えられるよう準備を進めて下さい。

ポスターならびに発表会で準備する基礎資料の製作においては、研究室のゼミ資料、学会での発表論文などを転用して、極力負担を軽減し要領よくまとめて下さい。成果がまだ十分でない場合は、基礎資料ファイルや教科書の専門書・論文などのファイルを準備し、中間発表の際のディフェンス材料として準備しておいて下さい。

5. 博士後期課程について

■ 工学系研究科博士後期課程 システム創成科学専攻・社会循環システム学コース

博士後期課程は各専門分野についての高度な研究能力のみならず、幅広い学際的視野と総合的判断力、対応能力を養うことを目的としています。したがって、三年間のほとんどを自身の専門分野に関する研究に費やすことになり、研究成果を国内外の学会等で発表するほか、審査付きの学会論文集に投稿し少なくとも2～3編掲載されることが求められます。修了し学位論文審査に合格すると博士（工学）の学位が与えられます。

入学者選抜は、筆記試験、口述試験、面接等によって行われます。

第5部 就職・資格／免許・学生生活について

1. 進路の選択－就職してどんな仕事をするか－

学部卒業後もしくは大学院修了後に、社会においてどのような仕事を行うかという重要な選択を行う必要があります。そのためには在学中の早い時期から職種や仕事内容についての情報を集め、自分の適性を見極めることが重要です。

■公務員に就職した場合

公務員には国家公務員と地方公務員があります。国家公務員は、平成 24(2012)年より採用試験が大幅に変更となり、総合職試験、一般職試験、専門職試験、経験者採用試験という体系となりました。総合職試験は、政策の企画立案等の高度の知識、技術又は経験を必要とする業務に従事する係員の採用試験であり、一般職試験は、事務処理等の定型的な業務に従事する係員の採用試験です。学部生および大学院生ともに経験者採用試験以外の試験は受験可能です。地方公務員は上級、中級、初級に分かれており、大学卒は上級又は中級となります。また地方公務員には職種が決められており、本学科・専攻では技術系の土木職または建築職の受験が一般的です。国家公務員は国の機関である各本省やその出先機関である地方部局に所属します。地方公務員は採用された都道府県、市町村に所属し、住民の福祉の増進に勤めます。

○仕事の内容

土木職公務員の場合は、土木技術者であると同時に国、都道府県、市町村の行政（許認可事務）の1部も担当します。おもな仕事は都市の再開発や各種土木構造物や施設を建設するために必要な各種の調査、測量、需要量の将来予測、設計委託、工事費積算、工事発注、工事監督および許認可事務にともなう技術的審査等です。ただし、公社・公団（独立行政法人）の場合は行政事務が担当せず、おもに大型プロジェクト（高速道路・ダム・橋梁・処理施設など）の建設とその維持管理を行います。一方、建築職公務員の業務は、建築確認申請、建築法規などに関する相談業務及び市営住宅や行政施設の建設管理、修繕業務を行いません。建築確認申請というのは、建物を建てるときに、建築基準法に合っているかどうかの確認の申請が原則必要となりますが、その申請内容をチェックする事が主な業務となります。また後者では図書館、学校、市営住宅、公民館など行政施設について新築工事の管理や修繕、改築工事などを担当します。

■総合建設業に就職した場合

総合建設業とは、元請負者として各種の土木・建築工事を一式で発注者から直接請負い、工事全体のとりまとめを行う建設業者のことをいい、通称ゼネコンと呼ばれています。主な会社は全国で約 500 社ほどです。これを会社の規模で分けると大手と呼ばれるものが約 40 社、中小と呼ばれるものが 460 社あります。大手の建設会社は全国で仕事をするので、主な都市には支店又は出張所を持っています。中小の建設会社はおおむね複数の県、又はその会社のある県内のみの限定された地域の仕事をするもので、支店や出張所もそれなりに限定されています。今までの卒業生の就職先は、大手と中小を含めて、受注高の上位から 100 社ぐらいまでの会社が大部分ですが、県内業者に入社している例もあります。

なお近年は、アジア諸国・中近東・アフリカ・中南米など外国の工事を受注する例もあり、この場合はおおむね大手の会社です。

○仕事の内容

主に官公庁（国や県・市町村・公団公社）から発注される構造物や施設の建設を契約期限内に仕上げるのが主な仕事です。構造物や施設の種類も多様であるため、その現場も山間部や市街地など多岐にわたっています。会社では、必要に応じて本社・支社・出張所・現場事務所などに配属されますが、諸調査・測量・積算・施工管理・設計等に従事することになります。

■コンサルタントに就職した場合

ここでいうコンサルタントとは建設コンサルタントのことで、主に構造物・施設の建設や都市再開発、宅地造成にともなう設計や工事に関する調査・企画・立案に関する業務を官公庁・公社・公団等から受託するものです。建設コンサルタントの業務内容は道路・河川・都市計画等 18 の部門にわたる広範囲のものであり、各社、それぞれ得意とするいくつかの部門の技術者を有しています。

○仕事の内容

国や地方公共団体・公社・公団（独立行政法人）及び民間等から発注された各種プロジェクト建設のための調査・需要予測・地質調査・測量・各種構造物の実施設計・工事積算・工事管理等に従事します。

■その他

その他には、鉄道関係の会社、住宅建設販売会社、建築設計事務所、建設資材メーカー（コンクリート製品、鋼材など）、空調や管工事、道路工事を専門とする会社、プラント会社、電力・電気会社、各種デザイン会社、システムエンジニア会社及び高等学校教員等があります。

2. 都市工学科の卒業生就職先

都市工学科およびその前身である土木工学科と建設工学科を合わせて、平成 29 年 3 月までに 3,170 名の卒業生を社会に送り出しました。その就職先の内訳は下の表に示すとおりです。

理工系の採用活動も文系と同じように採用試験の実施時期が早まるとともに、ネット利用による自由応募制を採る企業が増えてきています。従来は学科に求人票を送り推薦者の中から採用する会社が主体でしたが、ネットを用いて広く人材を求め有能な人のみを採用する企業も増えてきました。このような状況において、学科が総ての採用情報を把握することは困難であり、学生個々の就職希望先とそれに基づく就職活動が重要となります。ネット利用による企業研究と採用情報収集は不可欠です。ただし、膨大な情報に戸惑う学生も見受けられます。毎年多数の求人票が学科に送られてきていますし、卒業生の就職先なども参考になります。自分の適性を理解した上で、目的意識をもって学習し、自己研鑽を重ねておかないと希望する職種に就けるとは限りません。新聞を読み日頃から社会情勢を理解すると共に、表現力（調査能力、文章能力、発表能力）を高める努力が求められます。しっかりと自己分析を行った上で、将来の進路を早めに決定し、積極的に就職活動を行って下さい。

表 5-1 平成 28 年度卒業・修了生の進路一覧表

職種		修士	学部
土木系	建設業・ゼネコン	2	19
	コンサルタント	5	3
	一般（含、JR、NTT 等）	0	2
建築系	ゼネコン	2	1
	住宅、住宅機器	2	6
	設備関係	1	3
	設計事務所	2	0
	一般（含、JR 等、NTT、建材関連）	0	0
プラント、メーカー等		1	4
IT 関連		0	2
その他（含、不動産）		1	2
公務員	国家	0	1
	都道府県	0	5
	市町村	0	4
	警察、消防、自衛隊 等	0	2
大学院	佐賀大学・院	1	17
	他大学・院	1	1
	大学院研究生/他大学	0	0
未定		0	2
合計		18	74

表 5-2 主な就職・進学先

業種	主な就職・進学先
国家公務員	国土交通省 経済産業省 防衛省 会計検査院 国土地理院 他
公社・公団・独立行政法人・事業団等	日本下水道事業団 水資源開発公団 佐賀西部広域水道企業団 佐賀東部水道企業団 福岡土地区画整理協会 九州大学 長崎大学 他
都・道・府・県	佐賀県 福岡県 大分県 熊本県 長崎県 岡山県 山口県 愛媛県 和歌山県 京都府 千葉県 広島県 島根県 東京都 大阪府 他
市・町・村	佐賀市 唐津市 鳥栖市 鹿島市 福岡市 北九州市 宗像市 太宰府市 久留米市 大野城市 呉市 長崎市 大牟田市 熊本市 延岡市 宮崎市 長崎市 佐世保市 島原市 大村市 福江市 八代市 大野城市 大川市 日田市 長門市 柳川市 荒川区 小城市 大和町 他
総合建設業	アイワ工業 青木あすなろ建設 浅沼組 穴吹工務店 新井組 大林組 奥村組 鹿島建設 川田建設 熊谷組 五洋建設 西海建設 佐藤工業 三軌建設 清水建設 積水ハウス セキスイハイム 銭高組 大成建設 大和ハウス工業 竹中工務店 竹中土木 鉄建建設 東急建設 東亜建設工業 東洋建設 戸田建設 飛島建設 西松建設 日特建設 日本国土開発 前田建設工業 松尾建設 松本組 ミサワホーム 三井住友建設 みらい建設工業 村本建設 若築建設 大東建託 一条工務店 他
その他の建設業	大林道路 オリエンタル白石 ガイアート T・K 三機工業 JFE エン지니어リング 世紀東急工業 西部造園 大成ロテック 日揮 NIPPO 日本基礎技術 日本建設技術 日本道路 ピー・エス 富士・ピー・エス 不動産トラ 前田道路 松尾橋梁 宮地エンジニアリング 横河工事 IAO 竹田設計 他
コンサルタント	ウエスコ オオバ 応用地質 オリエンタルコンサルタント 九州建設コンサルタント 建設技術研究所 国際航業 構造計画研究所 セントラルコンサルタント 第一復建 大日本コンサルタント 中央コンサルツ 中国施設設計 東京建設コンサルタント 東京設計事務所 西日本技術開発 日水コン 日本工営 日本上下水道設計 日本水工設計 日本地研 日本理水設計 パシフィックコンサルタント 福岡都市技術 福山コンサルタント 三井共同建設コンサルタント 玉野総合コンサルタント 八千代エンジニアリング 他
一般企業	宇部興産 NTT 九州電力 九電工 西部ガス 佐世保重工業 佐電工 JR九州 JR東海 JR西日本 JR東日本 新日軽 西日本鉄道 日本通運 NEXCO 全日本航空 第一生命 本田技研工業 他
ソフトウェア・コンピュータ	沖ソフトウェア 九州日本電気ソフトウェア CRC 総合研究所 CSK 東芝九州システム開発 日立ソリューションズ 富士通 他
教職	九州大学 佐賀大学 山口大学 信州大学 熊本工業大学 豊田工業高等専門学校 八女工業高校 粕屋高校 鳥栖工業高校 唐津工業高校 塩田工業高校 他
大学院進学先	佐賀大学（修士・博士） 九州大学（修士・博士） 山口大学（修士） 広島大学（修士） 九州工業大学（修士） 京都大学（修士） 大阪大学（修士） 東京工業大学（修士） 北海道大学（修士） 名古屋工業大学（修士） 大阪市立大学（修士） 北九州市立大学（博士） ブタペスト工科大学（修士） メルボルン大学（修士） 中国同済大学

3. 就職に関する学科の方針

(1) 民間会社への大学推薦は同時に2社以上は行いません。

公募（自由応募で受験し、推薦書を必要としないもの）で受験する場合、原則として推薦書の作成は行いません。公募と大学推薦との併願は可能ですが、双方とも合格した場合は、大学推薦の会社に行くようにして下さい。したがって、公募で入社試験を受け、同時に大学推薦も受けようとする場合は、この点に十分留意して受験および大学推薦を受けて下さい。

大学推薦とは、大学（学科・専攻）と相手方（会社）との信頼関係のもとに成立するシステムであり、信頼関係あつての推薦であり、推薦あつての信頼関係であることを十分認識して、分別のある行動と判断をお願いします。

(2) 民間会社と公務員（国家・独立行政法人・県・市）の併願について

民間会社と公務員の併願を認めない民間会社がありますので、募集要項に記入された事項に注意して下さい。既に公務員試験を受けたか、あるいは受ける可能性がある場合でも、会社面接時に、その旨伝えて下さい。また、公務員との併願については、就職担当主任教授および卒論指導教員に予め相談しておいて下さい。過去の例で最も多いトラブルがこの公務員との併願に関するものです。

公務員を絶対希望する学生が民間会社も受験する場合、一般的には公募形式で複数受験することが好ましいと言えます。公務員を希望する学生が、推薦で民間会社を受験することは、民間会社のみを希望する学生の選択肢を減らしていることに充分留意して欲しいと思います。いずれにしても、公務員を絶対希望する学生は、予め指導教員と十分な打ち合わせを行い、かつ周到な準備をして下さい。

(3) 学部学生と大学院生が同時に希望した場合

大学院生を優先します。

(4) 就職ガイダンスなどの就職情報の提供

都市工学科北棟の2階及び就職対策室に掲示していますので利用して下さい。就職対策室は、理工学部2号館都市工学科中棟1階の図書室に併設しています。就職関係の各種資料を揃えていますので、2年生・3年生も気軽に利用して下さい。またメールによる配信も行ないます。

(5) 大学学生センター内のキャリアセンターの有効活用

全学の学生を対象にエントリーシートや履歴書の添削指導、面接試験対策など行っています。積極的に利用して下さい。

(6) 平成30(2018)年度の推薦希望・申し込みは三島伸雄教授まで。

4. 各種資格・免許について

各企業・団体等とも優秀な人材を確保するために、面接や筆記試験を複数行うなど、簡単には採用が決まらないシステムをとる傾向にあります。また、終身雇用の概念が薄れてきているため、卒業後何年か後に転職をするというケースも稀（まれ）ではなくなってきています。そのようなときに、資格や免許は、自己の「職能」をアピールすることができます。「卒業するまでに資格を取得する」、あるいは「卒業後の資格取得が容易になる履修計画を立てておく」ことを強く奨めます。

ここでは、大学在学中、または卒業後に取得できる資格・免許について、簡単に説明します。さらに詳しいことは、資格・免許を授与する団体・協会等のホームページを参照するようにしてください。

■大学在学中に受験できる資格など

技術士補

建設業界における第一級の資格である「技術士」の前段の資格です。この技術士補を取得しさらに4年（大学院卒業の場合は2年）の実務経験を経れば技術士の受験資格を得ることが出来ます。技術士補の受験資格には制限が無く、学部の学生でも受験できます。合格しておけば、就職活動において大変有利だと考えられます。（詳しくは<http://www.engineer.or.jp/>）

TOEIC など

在学中に英語の公開テストを受験して高いスコアを得ておくことも、就職活動、あるいは将来のステップアップに有効です（「Ⅱ、学習」の外国語科目の欄も参照してください）。TOEICは英語コミュニケーション能力を測るテストです。企業によってはTOEICのスコアで海外勤務の条件を設けている場合もあります。（詳しくは<http://www.toeic.or.jp/>）

■所定の単位を修得すれば大学卒業時に得られる免許

工業高校1種普通免許状

都市工学科の学生は教員免許状（工業）一定の要件を満たすことで取得することができます。詳細は「理工学部で何を学ぶか」等を参照してください。

■所定の単位を修得すれば、卒業時または卒業後実務経験を経て申請により得られる資格

測量士補 平成25(2013)年度以降の入学生で、測量に関する科目（測量学を含む指定科目を30単位、次ページの表参照）を修め、大学を卒業した者。

平成21年度以降の入学生で、測量に関する科目（測量学Ⅰ及び測量学実習Ⅰを含む指定科目を30単位、次ページの表参照）を修め、大学を卒業した者。

平成20年度以前の入学生で、測量に関する科目（測量学Ⅰ及びⅡ、測量学実習Ⅰ及びⅡ^{*註}）を修め、大学を卒業した者。

測量士 平成25年度以降の入学生で、測量に関する科目（測量学を含む指定科目を30単位、次ページの表参照）を修め、大学を卒業した者で、測量に関して1年（実質365日）以上の実務経験を有する者。

平成21～24年度の入学生で、測量に関する科目（測量学Ⅰ及び測量学実習Ⅰを含む指定科目を30単位、次ページの表参照）を修め、大学を卒業した者で、測量に関して1年（実質365日）以上の実務経験を有する者。

平成20年度以前の入学生で、測量に関する科目（測量学Ⅰ及びⅡ、測量学実習Ⅰ及びⅡ^{*註}）を修め、大学を卒業した者で、測量に関して1年（実質365日）以上の実務経験を有する者。

表 5-3 測量に関する科目（平成 25(2013)年度入学生以降）

科目	単位	区分	科目	単位	区分
微分積分演習 I	2	専門基礎科目 (必修)	構造力学演習 II	2	専門科目 (選択)
線形代数演習	2		地盤工学実験演習	2	
微分積分演習 II	2		水工水理学	2	
力学演習	2		構造解析学	2	
構造力学演習 I	2		都市解析演習	2	
都市工学概論	2		都市防災工学	2	
図学	2		鉄筋コンクリート構造	2	
水理学	2	専門科目 (必修)	地盤工学	2	
土質力学	2		水工学実験演習	2	
都市工学ユニット演習 (都市環境基盤)	4	専門科目 (選択)	環境衛生工学	2	
測量学	2		環境生態工学	2	
測量学実習	1		コンクリート構造工学	2	
統計数理	2		都市・地域環境計画	2	
工業数学	2		都市交通工学	2	
基礎設計製図演習	2		流域水工学	2	
			地震工学	2	

*平成 25(2013)年度以降の入学生は、「測量学実習」は測量士資格取得上必修ではないが、履修が望ましい。

なお、上記の測量士補、測量士の免許取得申請のために必要な書類は

(イ) 卒業証明書 (ロ) 成績証明書 (ハ) 登録申請用紙 である。

書類については、(イ)・(ロ)は大学へ、(ハ)は日本測量協会へ申し込み、入手する事。

申請先は、国土交通省・国土地理院（電話 0298-64-1111）。（詳しくは <http://www.gsi.go.jp/>）

■大学卒業後すぐに受験できる資格

二級建築士

平成 21 年度以降の入学生で、建築士受験指定科目の二級建築士単位要件をを満たした者

平成 20 年度以前の入学生で都市工学科の建築・都市デザインコースを卒業した者
(建築技術教育普及センターHP: <http://www.jaeic.or.jp/>)

土木学会 2 級技術者

都市工学科を卒業した者。

(土木学会技術推進機構 HP: <http://www.jsce.or.jp/opcet/>)

■大学卒業後実務経験を経て受験できる資格

二級土木施工管理技士

都市工学科を卒業後 1 年間の実務経験を有する者

一級土木施工管理技士

都市工学科を卒業後 3 年間の実務経験を有する者

二級建築士

平成 21 年度以降の入学生で、建築士受験指定科目の二級建築士単位要件を満たし、1 年または 2 年以上の建築実務経験を有する者 (別紙参照)

平成 20 年度以前の入学生で、都市工学科を卒業 (建築・都市デザインコースを卒業した者を除く) 後、1 年以上の実務経験を有する者

一級建築士

平成 21 年度以降の入学生で、建築士受験指定科目の一級建築士単位要件を満たし、2 年以上の建築の実務経験を有する者 (別紙参照)

平成 20 年度以前の入学生で、都市工学科を卒業後 2 年以上の実務経験を有する者

技術士

技術士補の試験に合格した後実務経験を有する者

ただし、実務経験には、大学院修士課程における修学年数も算入できます。

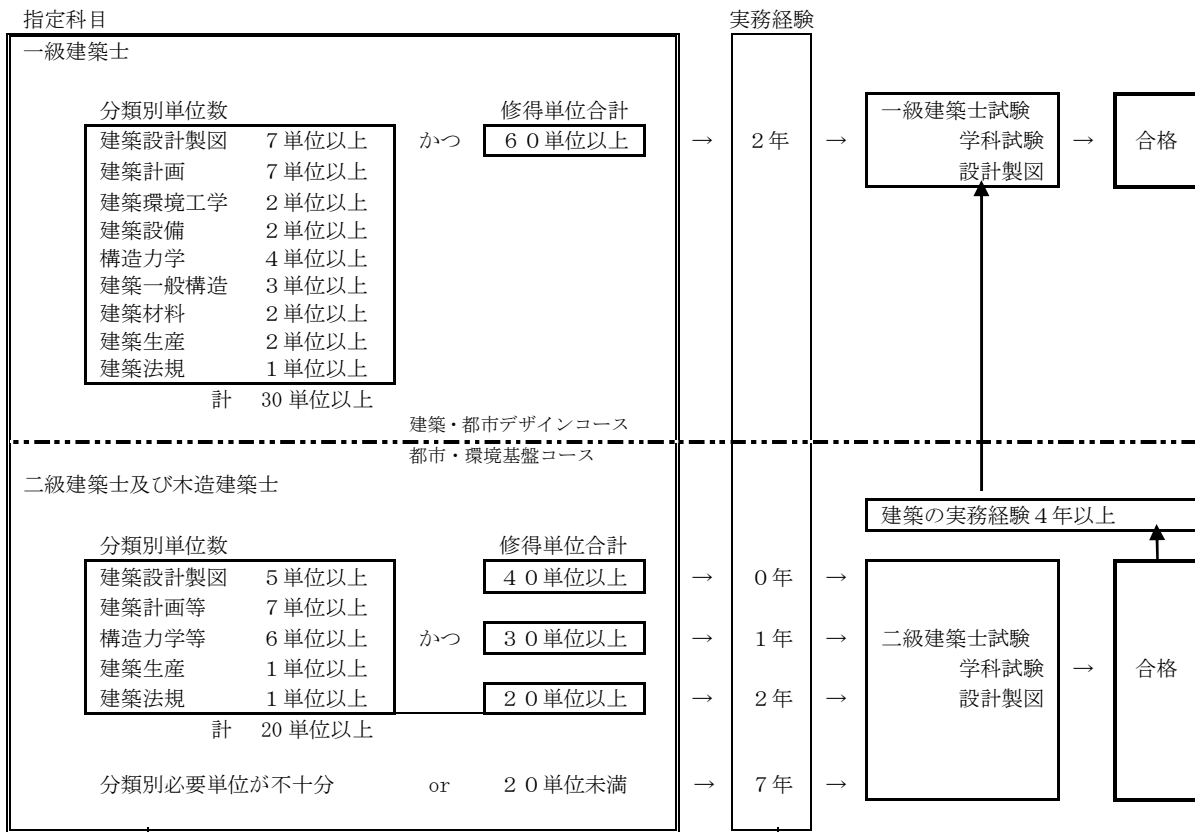
※このほか、都市工学科を卒業すれば、コンクリート技士・コンクリート主任技士・管工事管理技士・ダム管理主任技士などの資格試験において、必要実務経験年数の短縮を受けられます。

表 5-4 建築士試験指定科目（平成 25(2013)年度入学生以降）

建築士試験の種類：一級建築士試験／二級・木造建築士試験

指定科目の分類（必要単位数）		開講科目				
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数	
①建築設計製図 実務0～2年 (5単位以上)	①建築設計製図 (7単位以上)	基礎設計製図演習	2	選択	2	
		建築都市デザイン演習Ⅰ	2	選択	3	
		建築都市デザイン演習Ⅱ	3	選択	3	
		都市工学ユニット演習(建築)	3	選択	4	
		小計			12	
②～④ 建築計画、 建築環境工学 又は建築設備 実務0～2年 (7単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	アーバンデザイン	2	必修	2	
		現代建築概論	2	必修	2	
		居住環境計画	2	選択	2	
		地域施設計画	3	選択	2	
		建築空間史Ⅰ	2	選択	2	
		建築空間史Ⅱ	3	選択	2	
		建築デザイン手法	4	選択	2	
		小計			14	
	③建築環境工学 (2単位以上)	建築環境デザイン学	2	必修	2	
		建築環境工学Ⅰ	2	選択	2	
		建築環境工学演習Ⅰ	3	選択	2	
	小計			6		
	④建築設備 (2単位以上)	建築環境工学Ⅱ	3	選択	2	
		建築環境工学演習Ⅱ	3	選択	2	
小計			4			
⑤～⑦ 構造力学、 建築一般構造 又は建築材料 実務0～2年 (6単位以上)	⑤構造力学 (4単位以上)	構造力学演習Ⅰ	1	必修	2	
		構造力学演習Ⅱ	2	選択	2	
		土質力学	2	必修	2	
		構造解析学	2	選択	2	
		地震工学	3	選択	2	
		小計			10	
	⑥建築一般構造 (3単位以上)	鉄筋コンクリート構造	2	選択	2	
		鉄筋コンクリート工学	2	選択	2	
		鉄筋コンクリート構造設計	3	選択	2	
		コンクリート構造工学	3	選択	2	
		鉄骨構造学	3	選択	2	
		小計			10	
	⑦建築材料 (2単位以上)	建設材料学	2	選択	2	
		構造・材料実験演習	3	選択	2	
	小計			4		
	⑧建築生産 (1単位以上)	⑧建築生産 (2単位以上)	計画システム分析	2	選択	2
			建設施工・維持管理学	3	選択	2
			小計			4
⑨建築法規 (1単位以上)	⑨建築法規 (1単位以上)	建築法制度とデザイン	3	選択	2	
		小計			2	
20単位以上	30単位以上	合計			66	
⑩その他 (適宜)	⑩その他 (適宜)	力学演習	1	必修	2	
		測量学	1	選択	2	
		測量学実習	1	選択	1	
		都市計画	2	選択	2	
		技術者倫理	3	選択	2	
		小計			9	
実務0年 40単位以上	実務2年 60単位以上	合計			75	
実務1年 30単位以上						
実務2年 20単位以上						

建築士合格まで
佐賀大学工学部都市工学科（平成 21 年度入学生以降）



選択科目＝基本的には自主性にゆだねられる
 ただし、コースによって卒業要件が異なり、
 それぞれのコース科目の修得が必要

都市・環境基盤コースにおいて
 二級建築士受験に向けて 20～40 単位は可能

指定科目の詳細：前ページ参照

建築設計事務所
 構造設計事務所
 設備設計事務所
 建設会社、ハウスメーカー
 建築行政 など
 佐賀大学大学院都市工学専攻
 1 年の実務経験
 (要インターンシップ)

- 受験に必要な書類：
- ①卒業証明書
 - ②指定科目修得証明書
 - ③実務経験証明書
(大学院の場合は、単位修得証明書)

5. 大学評価・学位授与機構について

■在学年限について

佐賀大学学則第 16 条により、大学における修業年限は 4 年と定められています。修得単位が不足して留年などで遅れた場合、大学に留まることのできるトータル的年数(在学年限)は 8 年までとなっています。ただし、これらの年数は 1 年生より入学した一般の学生の場合であり、転入学、編入学、再入学などによって入学した学生の在学年限は、それぞれの定められた在学すべき年数の 2 倍までです。

■大学評価・学位授与機構

上記の在学年限を過ぎたことにより大学を卒業できなくなった学生に対して、学士の学位を取れる道が残されています。

これは、学校教育法第 6 8 条の 2 第 3 項第 1 号に基づく学士の学位の授与制度であり、短期大学や高等専門学校卒業者、大学に 2 年以上在学し 62 単位以上を修得した者などが、大学の科目等履修生として単位を修得するなどの方法により一定の学修を積み上げた場合、大学評価・学位授与機構が行う審査によって学士の学位を取得できる途を開いたものです。

具体的には、大学に 2 年以上在学し 62 単位以上を修得した学生で、在学年限を過ぎた場合は、在学期間を含めて 4 年以上にわたり上記の単位を含めて 124 単位以上の単位を科目等履修生などの制度を用いて履修し、なおかつ学修成果(専攻に係る特定のテーマについての学修の成果)をレポートとして作成した場合に、大学評価・学位授与機構へ学士の学位授与の申請をすることができます。

なお、詳しい資料の請求先は下記の通りです。

大学評価・学位授与機構 管理部 学位審査課

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1

電話 03-3942-2355

HP: <http://www.niad.ac.jp/>

6. 学生生活に関する Q & A

<p>授業料未納</p>
<p>Q：授業料を納めないと、どういう処分を受けますか？ A：授業料は、納付期間が前学期 4 月 1 日～4 月 30 日、後学期 10 月 1 日～10 月 31 日と定められています。納入しないと除籍となり、学生としての身分が消滅します。 詳しくは、佐賀大学学生センターHP アドレス：http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/</p>
<p>授業料免除</p>
<p>Q：授業料の免除、徴収猶予、分納を希望したいのですが、どういう手続きが必要ですか？ A：佐賀大学 HP の授業料免除のページに申請書類があります。前学期分は 1 月中旬、後期分は 7 月下旬に書類を印刷し、その書類に記入し、市町村の所得証明書（本人を含む 16 歳以上の同一生計家族全員分）等必要書類を付けて、前学期分は 4 月上旬、後学期分は 9 月初旬に申請会場に提出して下さい。 詳しくは、佐賀大学学生センターHP アドレス：http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/</p>
<p>奨学金</p>
<p>Q：日本学生支援機構の奨学金の貸与を受けたいのですが、どういう手続きが必要ですか。 A：学生生活課（学生センター南側 1 階）に申請書類があります。それに記入し、それと保護者の給与所得の源泉徴収票または市町村の収入証明を付けて前学期 4 月、後学期 10 月（2 年次以上は 4 月の 1 回のみ）の所定の期日までに学生生活課に提出すると、審査のうえ貸与されることがあります。詳しくは、http://www.jasso.go.jp/saiyou/daigaku.html に掲載されています。 貸与金額・月額 第一種奨学金（無利息） ①自宅通学者：45,000 円（最高月額）、30,000 円、20,000 円 ②自宅外通学者：51,000 円（最高月額）、40,000 円、30,000 円、20,000 円 ※最高月額は家計支持者の収入等により選択の可否が変わります。 第二種奨学金（有利息） 20,000 円から 120,000 円までの 1 万円単位の金額 Q：日本学生支援機構の奨学金のほかにも貸与される奨学金がありますか。 A：地方団体等の奨学金などがあります。団体により出願資格、貸与金額、申込方法が違います。自分の出身の県や市町村が母体となっている奨学制度の有無を学生生活課で調べてください。貸与金額は年度ごとに更新される場合もあり、また、申し込み期限は大抵 4 月中旬から 5 月上旬までです。早めに学生生活課に問い合わせてください。 詳しくは、佐賀大学学生センターHP アドレス：http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/</p>
<p>保険</p>
<p>Q：大学での活動中に傷害を受けた場合に備えて、保険に入る方が良いですか？ A：佐賀大学では、学生の皆さんが卒業するまでの期間、大学が保険料を負担し「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」に加入しています。教育研究活動中（正課中、学校行事中、課外活動中及び学内施設内）及び通学途中の不慮の災害事故によって傷害を受けた場合については、保険金が支給されます。 傷害を受けた場合には、学生生活課で手続きをしてください。</p>
<p>Q：他人に怪我をさせたり、器具を破損させた場合に備えて、保険に入る方がよいですか？ A：佐賀大学で上記の「学生教育研究災害傷害保険」に加入していますので、「学研災付帯賠償責任保険」に加入することができます。A コースは 1 年間 340 円（B コースを含む）、B コースは 1 年間 210 円です。詳細は、学生生活課に問い合わせして下さい。また、加入申込書を学生生活課で受け取り、郵便局で振り込みをしてください。 国内外において、正課・学校行事、課外活動又はその往復により、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したこと等により、法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害について保険金が支払われます。</p>

<p>Q：インターンシップを受けたいのですが、保険に入る必要がありますか？</p> <p>A：インターンシップ期間中の事故や企業の備品を壊してしまったりした時に保障されますので、賠償責任保険の加入をお願いします。</p> <p>佐賀大学で「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」に加入していますので、「学研災付帯賠償責任保険」に加入することができます。Aコースは1年間340円（Bコースを含む）、Bコースは1年間210円です。詳細は、学生生活課に問い合わせてください。また、加入申込書を学生生活課で受け取り、郵便局で振り込みをしてください。</p>
<p>後援会</p> <p>Q：後援会費とは何ですか？</p> <p>A：学生生活に必要な経費として入学時に後援会費（24,000円）を徴収しています。これは学生諸君の研修旅行の旅費、卒業式パーティー、就職斡旋のための教員旅費などの一部として使われるもので、必ず収めなければなりません。未だ収めていない人は、早急に工学系研究科総務係（理工学部1号館1階）に払い込んで下さい。</p>
<p>同窓会</p> <p>Q：同窓会について教えてください。</p> <p>A：都市工学科の卒業生が入会している同窓会には、理工学部同窓会（菱実会）と都市工学科同窓会（楠志会）の二つがあります。</p> <p>理工学部同窓会は、佐賀大学同窓会 HP http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/ を参照して下さい。</p> <p>都市工学科同窓会については、楠志会事務局（0952-28-8194）まで問い合わせてください。</p>
<p>健康診断</p> <p>Q：健康診断はいつ、どこで行われるのですか。</p> <p>A：定期健康診断：毎年1回（3月-4月） 全学生対象 特殊健康診断：電離放射線健康診断・じん肺健康診断・薬品を使用する学生の健康診断 場所：保健管理センター 健康診断を受けないと、奨学金・就職出願等に必要な健康診断証明書が発行されません。</p>
<p>身体と精神の診察</p> <p>Q：最近、体調がすぐれないのですが、診察してくれる所はありますか。</p> <p>A：保健管理センターが事務局の北側にあります。ここでは、内科医や精神科医、看護師、保健師がいて、身体的な診察はもとより、対人関係や修学上の問題など心理的、精神的健康についても相談に応じてくれます。もちろん無料です。大いに利用して下さい。</p> <p>詳しくは、佐賀大学保健管理センターHPアドレス：http://www.suhcc.saga-u.ac.jp/</p>
<p>附属図書館と学科図書室</p> <p>Q：本を読んだり借りたりしたいのですが？</p> <p>A：附属図書館：大学キャンパスの中央に4階建ての図書館があります。</p> <p>開館時間は、平日8:40～20:00（試験期8:40～21:00）、土日祝日10:00～19:00です。休館日は、開学記念日、年末年始、毎月第4木曜日（9月の試験期を除く）です。詳しくは、佐賀大学附属図書館HPアドレス：http://www.lib.saga-u.ac.jp/</p> <p>学科図書室：理工2号館別棟（都市工学科中棟）1階の都市工学科図書室に専門科目に関する雑誌や参考書を揃えています。自由に閲覧して下さい。</p> <p>なお、学科の図書や雑誌の貸出しは禁止です。コピーが必要な学生は、貸出し簿に記入の上コピー室でコピーして下さい。大学での学業を充実させるため、附属図書館や学科図書室を大いに利用して下さい。</p>
<p>コンピュータとネットワーク</p> <p>Q：パソコンを利用できる場所と方法を教えてください。</p> <p>A：大学内でのネットワークの利用については、ID番号（みなさんの学籍番号と同じ番号です）とパスワード（初期パスワードは学生証に印字されていますが、直ちにパスワード変更処理を行ってください）が必要です。詳しくは、1年前期開講の情報基礎概論の講義で説明がなされます。パソコンの利用については、以下の3つの方法があります。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 附属図書館または総合情報基盤センター演習室のパソコン 附属図書館は開館時間中、学術情報センター演習室は 20 時までの講義がない時間帯に自由に利用することができます。 ・ 教室有線 LAN 都市 I 番教室、II 番教室の各机には、電源と有線 LAN ソケットが備え付けてあります。ノート PC を持ちこめば、講義がない時間帯に自由に利用することができます。 ・ 無線 LAN 学内の無線 LAN アクセスポイント（教育用として開放されているもの）は自由に利用できます。
<p>夏季実習</p> <p>Q：職場体験などができる現場実習（インターンシップ）などがありますか？</p> <p>A：3 年生のうち、希望者があれば、おもに公官庁や公団などの現場事務所や工事現場で約 1 ヶ月の夏休み実習を行うことができます。この場合、実習生の受け入れ機関との調整は都市工学科が行います。詳細は担当教員に問い合わせして下さい。</p>

<p>構内交通規定</p> <p>Q：自動車で通学したいのですが、校内交通規定があると聞いています。自動車通学許可の手続きや規制の内容について教えて下さい。</p> <p>A：本学には「佐賀大学本庄地区構内交通規定」があり、車両の入・退構、駐車は厳しく制限されています。入構・駐車できる自動車は登録者に限られます。登録できるのは、本学が定めた条件に適合する学生（通学時間 120 分以上の者）のみであり、詳細については 1 月に掲示されるので、それに従って所定の手続きを行い、登録票及びパスカード（4,500 円）の交付を受けて下さい。ただし、登録票の有効期間は 1 年ですから、毎年度更新手続きが必要です。又、車を変更する場合も更新しなければなりません。</p> <p>その他の交通規制</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自動車・自動二輪車・自転車いずれも所定の駐車場以外には駐車してはならない。 2. 入・退構経路及び駐車場は次の通りである。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>経路</th> <th>駐車場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">理工学部生</td> <td>自動車</td> <td>南部バイパス入口</td> <td>都市南棟（理工 3 号館）南側 理工学部 2 号館・3 号館東側駐車場 理工学部 6 号館・7 号館西側駐車場 イノベーション・ラボ西側駐車場 および東側駐車場</td> </tr> <tr> <td>自動二輪車</td> <td>南部バイパス入口</td> <td>理工学部実習工場西側二輪車置場</td> </tr> </tbody> </table> <ol style="list-style-type: none"> 3. 本部前道路及び蓮池西側（農学部と本部の間）は自転車を除いて、原則、通行禁止である。 4. 構内での最高速度は 20 km/h なので厳守すること。 <p>※注意！ 上記の規制に違反した場合は、登録を取り消すなどの処置が取られます。また、未登録車の駐車は厳しくチェックされ、車の所有者を調査した後、処分を受けることになります。</p>			経路	駐車場	理工学部生	自動車	南部バイパス入口	都市南棟（理工 3 号館）南側 理工学部 2 号館・3 号館東側駐車場 理工学部 6 号館・7 号館西側駐車場 イノベーション・ラボ西側駐車場 および東側駐車場	自動二輪車	南部バイパス入口	理工学部実習工場西側二輪車置場
		経路	駐車場								
理工学部生	自動車	南部バイパス入口	都市南棟（理工 3 号館）南側 理工学部 2 号館・3 号館東側駐車場 理工学部 6 号館・7 号館西側駐車場 イノベーション・ラボ西側駐車場 および東側駐車場								
	自動二輪車	南部バイパス入口	理工学部実習工場西側二輪車置場								
<p>ライブキャンパス LiveCampus</p> <p>Q：ライブキャンパス LiveCampus というシステムがあると聞きました。何ができるのか教えてください。</p> <p>A：学生が履修登録をしたり、成績表や時間割を確認したりするためのシステムです。学外からも、学籍番号とパスワードを用いて扱うことができます。その他、先生からの連絡を受けたり、学習状況を記録していくためのラーニング・ポートフォリオというシステムや、授業評価アンケートもライブキャンパスから入って記入します。</p>											